

令和6年度 米子工業高等専門学校

地域創生テクノセンター 活動報告

果敢な
共同イノベーション



独立行政法人 国立高等専門学校機構
米子工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Yonago College

地域創生テクノセンター

目 次

地域創生テクノセンター活動報告の発行にあたって	1
I. 米子高専振興協力会	2
1. 役員会	
2. 総会	
3. 企業見学会	
4. 新年交流会	
5. 企業ガイドブック	
6. 地域学	
II. 産学官交流事業	5
1. 創立 60 周年記念式典・植樹式	
2. 令和 6 年度 KOSEN フォーラム	
3. 米子市と「ふるさと納税を活用した地域活性化に係る連携協定」締結	
4. とっとり産業未来フェス	
5. その他	
III. 産学官連携会議	7
1. 令和 6 年度中国地区テクノセンター長等会議	
IV. 地域社会への参加・貢献	8
1. 各種委員会等 参加状況	
2. 各種イベント・セミナー・会議等 参加状況	
V. 地域共同研究開発推進事業	10
1. 共同研究	
2. 受託研究	
3. 寄附金	
4. 受託事業	
5. 補助金	
6. 科学研究費助成事業	
7. 地域共同技術研究・開発援助費	
VI. 地域共同教育事業	16
1. 公開講座・出前講座・連携講座	
VII. 情報発信事業	22
1. 一般教養番組「米子高専知的セミナー」	
VIII. その他	22
1. 地域創生テクノセンター運営委員会	
2. FD・SD 研修会	
3. 米子高専生のための進路研究セミナー	
4. 米子高専技術シーズ集 2024 の発行	
IX. 報道等	24
1. 米子工業高等専門学校広報誌（彦名通信）抜粋	
2. 新聞・雑誌等掲載一覧	
3. 新聞記事抜粋	
4. 米子商工会議所報 シャンブル 抜粋	
X. 令和 6 年度 米子高専地域創生テクノセンタースタッフ	44

＜総合工学科の各部門を以下のとおり表記しています＞

機械システム部門→M

電気電子部門→E

情報システム部門→J

化学・バイオ部門→C

建築デザイン部門→A

教養教育部門→G

地域創生テクノセンター活動報告の発行にあたって



国立米子工業高等専門学校 校長 山口 利幸

米子高専における地域貢献への取り組みは、人材育成、科学技術相談、共同研究、受託研究、技術開発等の地域ニーズに可能なかぎり応えるという「地域協力」の形態で始まりました。

平成3年には、「米子高専の振興発展に協力するとともに、地域の文化・学術の発展に貢献する」ことを目的とした「米子高専振興協力会」が結成され、本校と地域企業の連携のもとでの共同の事業が行われるようになりました。その後、教育研究機能の向上と地域経済の活性化の推進を図る拠点とした「地域共同テクノセンター」を平成16年に設置し、このセンターを中心として産官学連携活動等に力を入れており、多数の技術相談、企業等との共同研究・受託研究や人材育成事業等の実績を積み上げてきました。

この地域共同テクノセンターの役割は産官学連携活動の推進、共同研究のコーディネート、小中学生の理工系離れ対策の公開講座や出前授業の実施、学生や企業技術者を対象とした人材育成事業の展開（地域共同教育による技術者の育成など）、まちづくり活動支援など多岐にわたっています。さらに、米子高専卒業生ネットワークを活用した「地方創生」事業への取り組みや県内における医工連携活動にも注力しており、工学のみならずさまざまな分野の知識を工学と複合活用できる人材の育成、そして育成した人材の地域への供給など活動を広げています。そのため、令和6年に「地域創生テクノセンター」に名称変更しました。また、令和3年度に改組により誕生した総合工学科では地元の企業等の活動の学びを深めるため、2年生全員を対象に授業科目として「地域学」を開講しています。

本報告書は、令和6年度に実施したこれらの諸活動や共同研究事業等に関する活動報告です。本報告書を有効活用していただくことにより、さまざまな分野における新たな連携や新技術の創出、地域の活性化が一層進展することを願っております。

さらに、本校は地域における産業界等との連携による先導的な職業教育の取り組みの促進、教育内容・教育方法の改善や、地域のニーズを踏まえた新分野への展開等の教育組織の充実を図るため、鳥取県、近隣の自治体や高等教育機関、地域産業界・金融界等との連携を強め、米子高専振興協力会との連携活動や卒業生ネットワークの構築・運営を通して継続的に地域の産業振興に貢献していく所存です。今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

令和7年11月

I. 米子高専振興協力会

沿革

平成 3 年 12 月	鳥取県東・中部の企業 20 社からなる「米子工業高等専門学校振興協力会」を結成
平成 7 年 7 月	鳥取県西部・島根県東部の企業 50 社と米子市からなる「米子工業高等専門学校中海振興協力会」を結成
平成 14 年 7 月	「米子工業高等専門学校振興協力会」と「米子工業高等専門学校中海振興協力会」を統合し、「米子工業高等専門学校振興協力会」となる

会員動向

令和 7 年 3 月 31 日現在、会員数 213（令和 6 年度中の新入会 13、退会 14）。

1. 役員会

日 時 令和 6 年 8 月 5 日（月）18：30～
場 所 稲田屋 米子店（米子市朝日町 58-11）
内 容 令和 5 年度事業報告・収支決算報告、令和 6 年度事業計画・収支予算案 他

2. 総会

日 時 令和 6 年 8 月 21 日（水）15：00～17：00
場 所 ANA クラウンプラザホテル米子（米子市久米町 53-2）
内 容 （1）令和 5 年度事業報告及び収支決算報告について
（2）令和 6 年度役員改選について
（3）令和 6 年度事業計画案及び収支予算案について
（4）新入会員企業の紹介
講演会 （1）産官学のすすめ ケーススタディ XIX
演 題：「高専における産官学連携活動について」
米子工業高等専門学校 校長 山口 利幸
（2）「我社の高専生採用記 PartIX」
株式会社インフォメーション・ディベロプメント
（3）米子高専近況報告

3. 企業見学会

・東中部地区企業見学会及び懇談会・懇親会

日 程 令和 6 年 9 月 3 日（火）
12：30 米子高専 発
14：00～16：00 株式会社寺方工作所（東伯郡北栄町田井 175）
16：20～17：20 懇談会 米子高専近況報告
17：30～19：00 懇親会
20：30 米子高専 着

・西部地区企業見学会及び懇談会・懇親会

日 程 令和 7 年 3 月 12 日（水）
13：00 米子高専 発
13：40～16：20 TVC 株式会社（西伯郡南部町原 938-2）
NOK 株式会社 鳥取事業場（西伯郡南部町原 1000）
17：00 米子高専 着

4. 新年交流会

日 時 令和7年2月18日(火) 16:00～20:00

場 所 ANA クラウンプラザホテル米子 (米子市久米町 53-2)

内 容

【第1部】講演会 (16:10～16:40)

演題 : 「ゼミ支援型交流」の構築と地元 IT 企業の協力」

発表者: 島根県産業振興課 IT 人材コーディネーター/巡回相談員 廣澤 博 氏

パネルディスカッション (16:40～17:30)

「地元に残すには」

(パネリスト)

気高電機株式会社 代表取締役社長

羽馬 好幸 氏

NTT コム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社

テクノロジー部担当部長

高田 智明 氏

鳥取県商工労働部雇用人材局 産業人材課 未来創造人材室長

井田 佳代子 氏

米子高専 情報システム部門 准教授

角田 直輝

(ファシリテーター)

米子高専 地域創生テクノセンター長

玉井 孝幸

諸連絡 (17:30～17:55)

ふるさと納税について

株式会社エッグ ビジネスサポート部 部長

福原 明人 氏

米子市・米子高専

キャリア支援室からのお知らせ 米子高専 キャリア支援室長

大塚 宏一

コーディネーター紹介 米子高専 地域創生テクノセンター長

玉井 孝幸

共同研究助成報告&学生活動報告 ※ロビーにて実施



【第2部】新年懇談会 (18:10～20:00)

5. 企業ガイドブック

令和6年11月、米子高専振興協力会会員を紹介する「企業ガイドブック2025」を860部発行した。ガイドブックは、本校の本科3、4年生および専攻科1年生にキャリア支援室を通じて配布し、進路の資料などとして活用された。



6. 地域学

学生のキャリア教育の一環として、地域創生テクノセンターとキャリア支援室が連携して、「地域学 研修旅行」を実施した。振興協力会19会員に受入れいただいた。

地域学は2年生に向けたプレインターンシップとしての要素を備え、身近な地元の企業を見学し、業務内容や仕事における心構え等を学ばせることを目的としている。また、就職や進路を考えるきっかけを与え、地元で優秀な技術者を確保するねらいもある。

2年生は11月14日（木）・15日（金）の2日間、1年生は9月30日（月）に実施した。

受入会員：

<1年生>TVC(株)、(株)懸樋工務店、ニッポン高度紙工業(株)、鳥取県金属熱処理協業組合

<2年生>リコーITソリューションズ(株)、美保テクノス(株)、(株)LIMNO、中国電力ネットワーク(株)日野変電所、千代むすび酒造(株)、(株)アイ・コミュニケーション、(株)アクシス、王子製紙(株)米子工場、(株)ヨナゴ技研コンサルタント、山陰酸素工業(株)、(株)八雲ソフトウェア、(有)河島農具製作所、(株)エースパック鳥取倉吉工場、(株)山陰ビデオシステム、米子瓦斯(株)

※順不同

Ⅱ. 産学官交流事業

1. 米子高専創立 60 周年記念式典・植樹式

日 時	令和 6 年 4 月 18 日（木）
会 場	米子高専 アカデミックシアター、図書館前中庭（米子市彦名町 4448）
内 容	開校記念日に挙行了した記念式典では、山口 利幸校長が「今後も地域の産業振興やまちづくりに一層の貢献をしていく」と式辞を述べた。亀井鳥取県副知事及び伊木米子市長から祝辞を頂戴し、谷口国立高等専門学校機構理事長から謝辞が述べられた。続いて、高専制度創設 60 周年の節目に、全国の高専が次の未来に向けて大きく成長することを祈念し、記念樹の植樹を行う「高専の森」プロジェクトの一環として植樹式が行われた。本校では、図書館前の中庭に、学問の神・菅原道真にちなんだ縁起物として紅梅と白梅が関係者らにより植樹され、学生のさらなる成長と発展を祈願した。

2. 令和 6 年度 KOSEN フォーラム

日 時	令和 6 年 9 月 3 日（火）・4 日（水）
会 場	オンライン開催
主 催	独立行政法人国立高等専門学校機構
内 容	高等専門学校の教職員が、教育・研究の質の向上、教育方法の開発推進及び研究・産学官連携の一層の推進を図るための研究・事例の成果発表や意見交換を行い、教職員の資質や教育・研究のポテンシャルの向上を目指すことを目的として、基調講演・パネルディスカッション・ポスターセッション等が開催された。 ※情報システム部門 徳光 政弘 准教授、化学・バイオ部門 藤井 貴敏 准教授が参加予定だったが台風でオンライン開催となった。

3. 米子市と「ふるさと納税を活用した地域活性化に係る連携協定」締結

日 時	令和 6 年 12 月 4 日（水）
会 場	米子市役所（米子市加茂町 1-1）
内 容	米子市ふるさと納税メニューに新事業『がいなよなご応援団高等教育機関連携事業（米子工業高等専門学校コース）』が設定され、米子市へのふるさと納税による寄附の募集を開始した。締結式には山口 利幸校長が出席し、「ふるさと納税を通じて米子高専を応援していただき、地域の活性化や魅力の向上により一層寄与していきたい。」と抱負を述べた。

4. とっとり産業未来フェス

日 時	令和 7 年 2 月 7 日（金）・8 日（土）
会 場	米子コンベンションセンター（米子市末広町 294）
主 催	鳥取県
内 容	県内外の優れた技術や製品等を広く情報発信し、企業や県民が価値を共有することで、共創による新事業展開や、中長期的な視点で若者の県内定着につなげていけるよう、ものづくり・IT 先端技術・音楽アート等を融合した、新たな総合産業発信イベントとして開催された。本校はパネル展示を行った。

5. その他

(1) JST「ジュニアドクター育成塾」

科学技術振興機構（JST）の「ジュニアドクター育成塾」事業に、本校が申請した企画「KOSEN 教育の強みを最大限に活かした科学に熱狂的な情熱を持つジュニアドクターの育成」を、化学・バイオ部門 榎間 由幸 教授を代表として令和4年度から実施しており、令和6年度は小中学生35名が第3期生として入塾し、本校の教員及び学生（メンター）の指導のもと、課題学習等に取り組んだ。また、令和5年度の修了生から選抜された11名が担当教員の研究室に所属し、より高度な工学研究を行う「第二段階プログラム」に取り組んだ。

「ジュニアドクター育成塾」は、将来の科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて、高い意欲や突出した能力を有する小中学生を発掘し、科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力等、児童生徒の能力を伸長することを目的とした教育プログラムで、さらに能力を伸長する体系的な取組みとなる。

【第一段階】講座スケジュール

6

7

8

9

10

11

12

2

講座スケジュール

講座はA、Bの2チームに分かれ、基本的に17～18人ずつ受講しました。

- ・開講式 / 【基礎講座】レポートの書き方
- ・【講座】液晶ディスプレイセルを作ってみようA班
- ・【講座】液晶ディスプレイセルを作ってみようB班
- ・【講座】金属材料の魅力A班
- ・講演会 角 正樹 先生 / 白坂 信 先生
- ・施設見学（岡山大学 惑星物質研究所）実験室でマグマをつくる
- ・【講座】金属材料の魅力B班
- ・【講座】音を通じて波の性質を学ぼうA班
- ・講演会 土江 松美 先生 / 本村 信一 先生 / 小浪 吉史 先生
- ・【講座】3Dプリンタでラビッドプロトタイピングを体験するA、B班
- ・【講座】光と音を奏でる電子ピアノで学ぶプログラミングB班
- ・【講座】光と映像の仕組みを学ぼうA班
- ・【講座】光と音を奏でる電子ピアノで学ぶプログラミングA班
- ・【講座】英語でプレゼンテーションする方法を学ぼうA、B班
- ・【講座】色素分離A、B班 / 分子結合：高分子合成A、B班
- ・【講座】光と映像の仕組みを学ぼうB班
- ・講演会 姉川 尊徳 先生
- ・【講座】数学を楽しもうA、B班
- ・【講座】音を通じて波の性質を学ぼうB班
- ・中間発表会【第二段階】【第一段階】
- ・講演会 宮崎 美衣 先生 / 荒木 菜見子 先生
- ・合宿（大山青年の家）1泊2日
- ・講演会 氷室 昭三 先生 / 竹中 敦司 先生 / 岩佐 精二 先生
- ・工場見学（サントリー天然水奥大山ブナの森工場 / とっとり花回廊）
- ・【第一段階】成果発表会・開講式 / 【第二段階】成果発表会（中間）
- ・【第二段階】成果発表会・修了式

【第一段階】

開講式

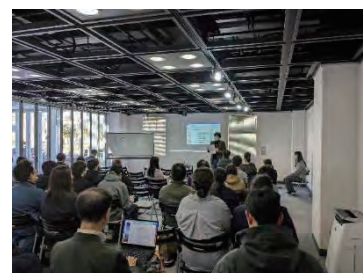


施設見学（サントリー天然水
奥大山ブナの森工場）



【第二段階】

成果発表会



(2)GEAR 5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）

地域密着型・課題解決型・社会実装型など従来型の高専としての特長を生かしつつ、オール国立高専、広範な企業、自治体、大学などとの連携体制という全国規模の「面」（基盤）としての体制の下、スケールメリット、オール国立高専の資源を駆使した新たな人材育成モデルの構築、企業、自治体、大学などと幅広く連携し、ユーザーサイドの視点も取り入れた効果的な人材育成など、高専だからこそできる人材育成の質的転換を行っている。一つの学問分野だけでは解決できないテーマ（社会課題）に対して、様々な分野の知見を生かしたアプローチで課題解決に結び付ける実践的な人材育成プログラムを開発する。

本校では、化学・バイオ部門 谷藤 尚貴 教授・清水 剛志 特命助教が、「防災・減災・防疫分野」（エネルギー）の協力校メンバーとして取り組んだ。

(3)地域創生人材の育成・定着推進事

「地域創生人材の育成・定着推進事業」は、県内の高等教育機関や自治体、経済団体等 18 の機関が連携・協力し、「地域創生人材（鳥取県の創生の核となり得る人材）」の育成と県内定着を目指す取り組みである。

本校は令和 6 年度の取り組みとして、『「ものづくり」「ことづくり」を創造発展できる人材養成』として、総合工学科 2 年次で開講される PBL、「地域学」を活用し、学生が主体的に課題を見つけ解決策を提案する能力を修得させるための活動を行った。また、PBL を通じて学生が地域企業・自治体等がもつ課題や文化背景等へ関心を持つように働きかけることができた。具体的には、年間を通して地域企業の調査と見学による企業研究を行った。専門分野の選択にあたって、様々な観点から俯瞰的に意志決定できるように分野横断的な専門基礎科目を開講することで、低学年（3 年生）からの専門コース選択に生かすことができた。

Ⅲ. 産学官連携会議

1. 令和 6 年度中国地区テクノセンター長等会議

日 時	令和 7 年 1 月 29 日（水）
開催校	広島商船高等専門学校
開 催	Microsoft Teams によるオンライン開催
内 容	中国地区 8 高専のテクノセンター関連行事、産学官連携事業、外部資金獲得のための取り組みについて報告がなされた。本校からは、玉井 孝幸 地域創生テクノセンター長が出席した。

IV. 地域社会への参加・貢献

1. 各種委員会等 参加状況

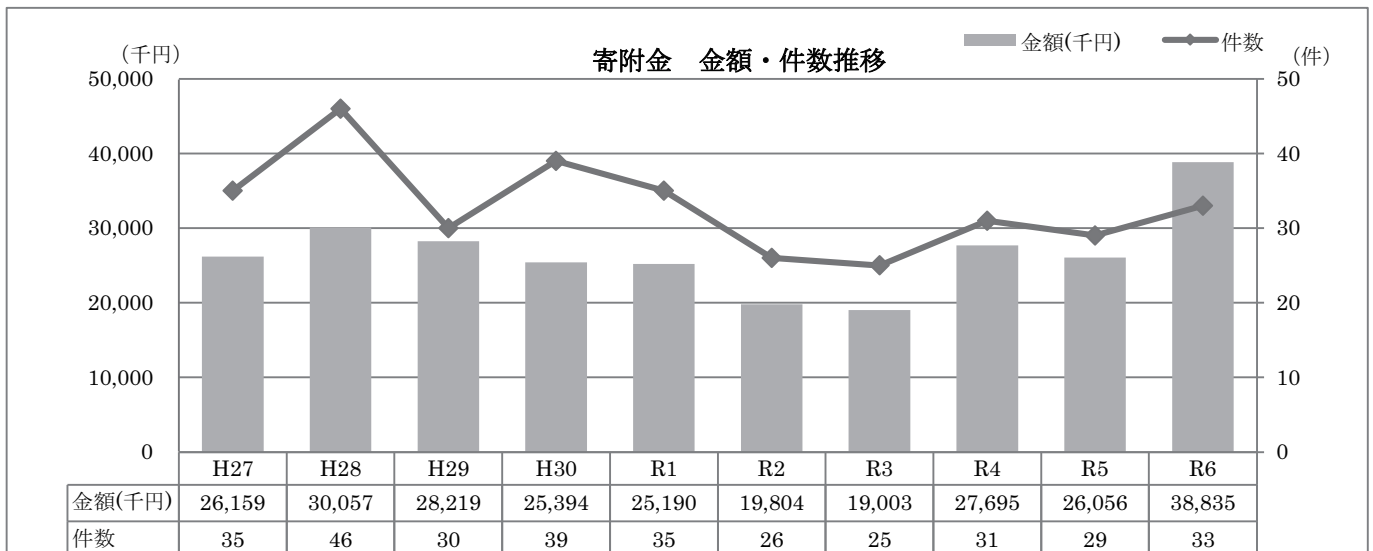
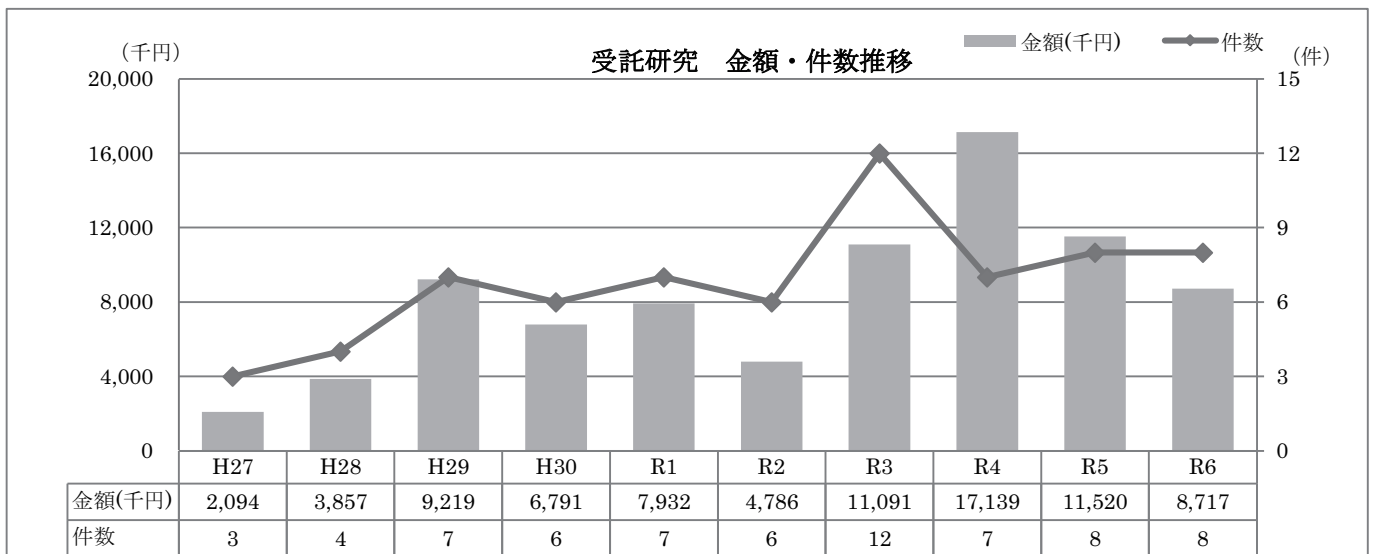
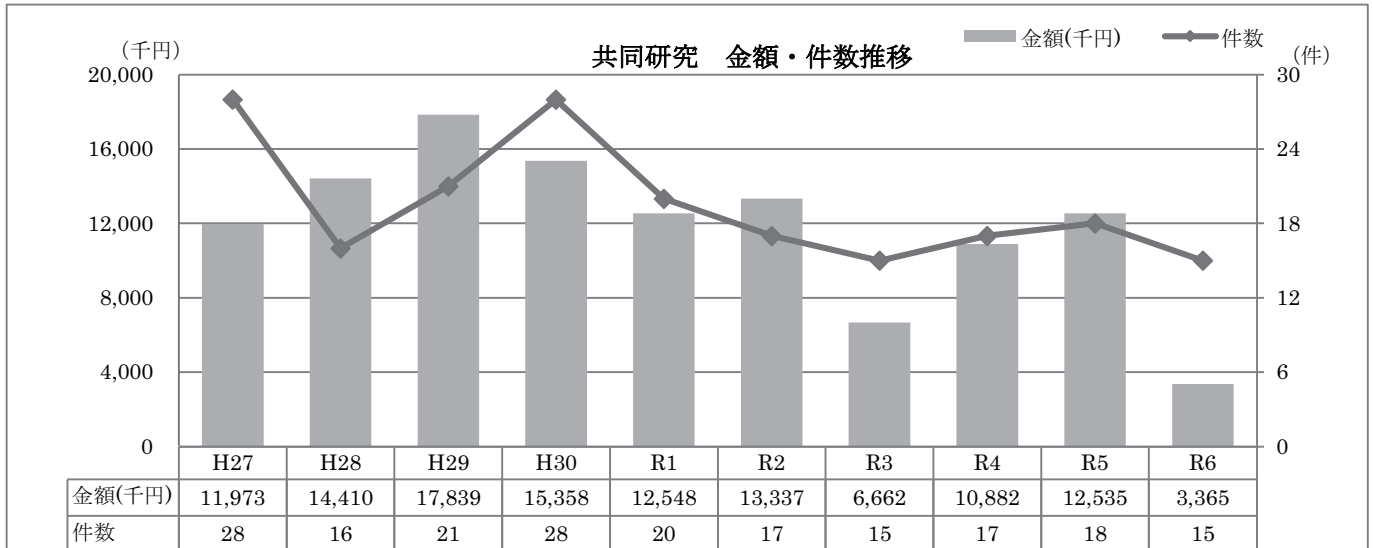
委員会等	所属部署	氏名
(公財)鳥取県産業振興機構評議員	校長	山口 利幸
(一社)品質工学会代議員	機械システム部門 教授	上原 一剛
鳥取大学医学部附属病院治験審査委員会委員		
(一社)日本機械学会中国四国支部第64期商議員		
(一社)日本機械学会中国四国支部第64期商議員	機械システム部門 教授	早水 庸隆
わかとり科学技術育成会西部地区実行委員会委員	電気電子部門 教授	権田 英功
米子ものづくり運営会議委員		
境港市総合戦略推進会議委員	電気電子部門 教授	松本 正己
(一社)電気学会 デジタル技術を活用したパワーエレクトロニクス教育に関する協同研究委員会委員	電気電子部門 准教授	石倉 規雄
電気学会 IPEC2026 論文委員会委員		
電子情報通信学会 電子通信エネルギー技術研究専門委員会委員		
QuEST Global Japan Corporation Technical Adviser	情報システム部門 教授	森田 一弘
中国地域半導体関連産業振興協議会検討委員		
NPO 法人日本スマートバブル研究会理事	情報システム部門 准教授	角田 直輝
安来市総合計画・総合戦略推進会議委員	情報システム部門 准教授	川戸 聡也
安来市総合計画審議会委員		
米子ものづくり運営会議委員	化学・バイオ部門 教授	田中 晋
わかとり科学技術育成会西部地区実行委員会実行委員		
北陸先端科学技術大学院大学教育連携アドバイザー	化学・バイオ部門 教授	藤井 雄三
境港市環境審議会委員	化学・バイオ部門 准教授	伊達 勇介
鳥取県西部広域行政管理組合一般廃棄物処理施設意見調整委員会委員		
島根大学研究・学術情報本部エスチュアリー研究センター協力研究員	化学・バイオ部門 准教授	藤井 貴敏
公益社団法人化学工学会 2024・2025 年度未来人材育成委員会委員		
鳥取県西部総合事務所県民福祉局指定管理候補者審査・指定管理施設運営評価委員会委員	建築デザイン部門 教授	高増 佳子
鳥取県防災顧問	建築デザイン部門 教授	玉井 孝幸
国立大学法人島根大学総合評価審査委員会委員		
(一社)高専デザコンコンソーシアム理事		
米子市都市計画審議会	建築デザイン部門 教授	前原 勝樹
境港市都市計画審議会委員	建築デザイン部門 准教授	小椋 弘佳
米子市都市計画審議会		
鳥取県景観アドバイザー		
米子市まちづくり活動支援交付金審査委員会		
鳥取県西部広域行政管理組合建設工事等入札・契約審議会委員	建築デザイン部門 教授	北農 幸生
米子市特定空家等及び特定空住戸等対策審議会委員		
倉吉市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員	建築デザイン部門 講師	荒木菜見子
米子市文化財保存活用地域計画協議会委員		
倉吉市伝統的建造物群保存地区保存審議会		
令和6年度都市木造建築技術実証事業委員(有識者)	建築デザイン部門 助教	川中 彰平
NPO 法人 team Timberize 理事		
安来市森林ビジョン推進協議会委員		
北陸先端科学技術大学院大学教育連携アドバイザー	教養教育部門 教授	倉田 久靖
中国電力(株)島根原子力本部エネルギーアドバイザー	教養教育部門 教授	中島美智子
米子市立図書館 外部委託講師	教養教育部門 教授	渡邊 健
島根大学 2024 年度法文学部山陰研究プロジェクト客員研究員		

2. 各種イベント・セミナー・会議等 参加状況

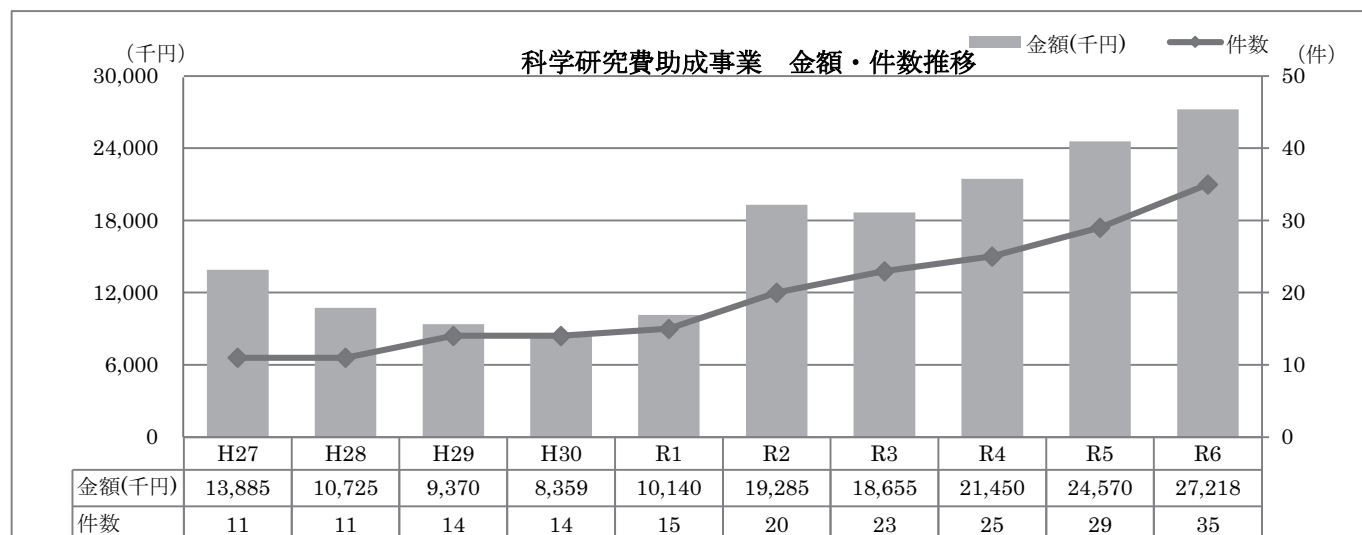
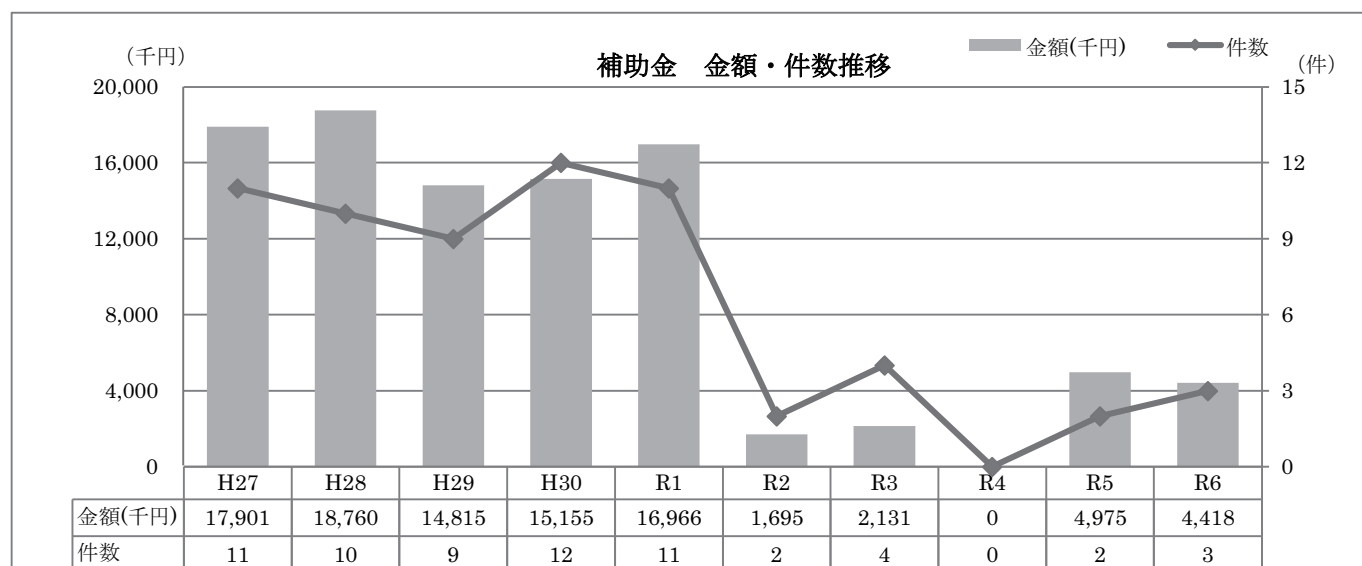
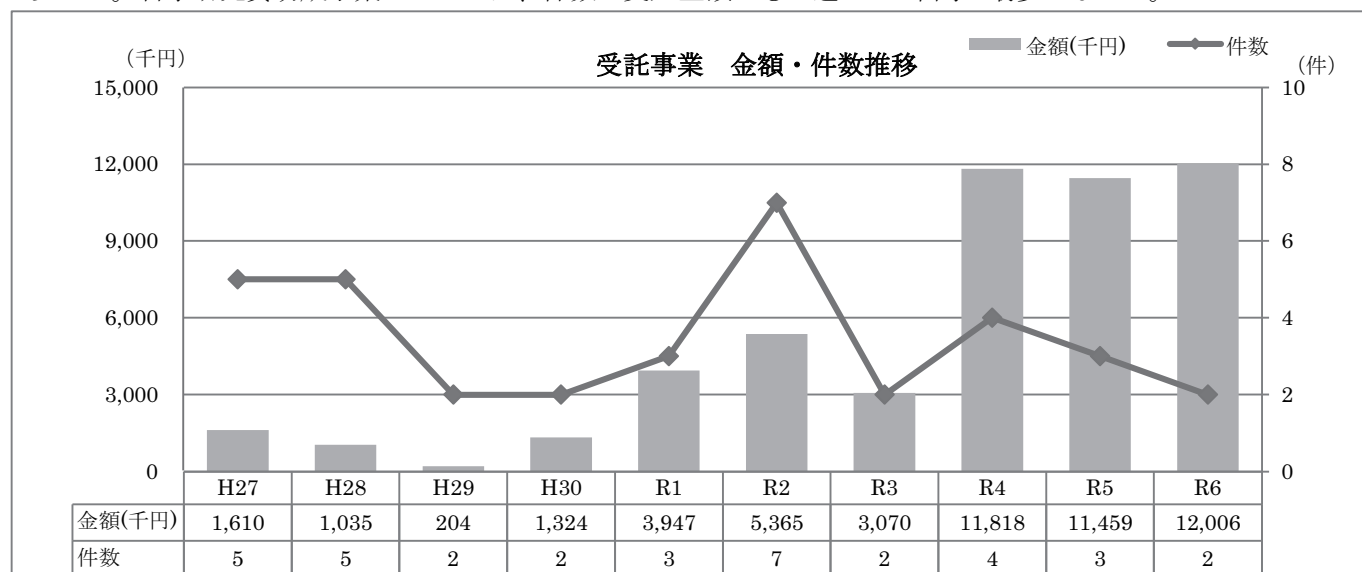
月	日	行事	役職	氏名
5	20	第1回とっとり若者 U ターン・定住戦略本部会議(オンライン)	校長	山口 利幸
	27	地域を担う人材の育成及び定着推進に関する協定締結式	校長	山口 利幸
	31	第1回第4ブロック研究推進ボード委員会(Web 会議)	地域創生テクノセンター長	玉井 孝幸
6	19	米子ガスグループから米子高専への寄附贈呈式	校長	山口 利幸
			副校長	山本 英樹
			国際交流支援室長	森田 一弘
			事務部長	平井 良昌
			総務課長	田中 大輔
28	中海・宍道湖・大山圏域 産学・医工連携推進協議会令和 6 年度通常総会(書面審査)	地域創生テクノセンター長	玉井 孝幸	
8	23	鳥取県地域活性化雇用創造プロジェクト推進協議会令和 6 年度第1回総会	地域創生テクノセンター長	玉井 孝幸
	29	令和 6 年度大山町企業連絡会議総会	産学連携コーディネーター	山本 一志
9	25	第2回第4ブロック研究推進ボード委員会(Web 会議)	地域創生テクノセンター長	玉井 孝幸
	27	第1回境港市総合戦略推進会議	産学連携コーディネーター	山本 一志
10	2	とっとりプラットフォーム 5+α 第 24 回運営協議会(オンライン)	地域創生テクノセンター長	玉井 孝幸
	31	第 45 回国立大学法人等研究部課長会議(オンライン)	総務課長	田中 大輔
11	7	第3回第4ブロック研究推進ボード委員会(メール審議)	地域創生テクノセンター長	玉井 孝幸
	13	とっとり花回廊フラワーイルミネーション内覧会	産学連携コーディネーター	山本 一志
	19	「ごうぎん SDGs 私募債」による株式会社八雲ソフトウェア及び株式会社山陰合同銀行から米子高専への寄付物品贈呈式	校長	山口 利幸
			副校長	山本 英樹
			総務課長	田中 大輔
			学生課長	門脇 幸見
	20	第2回とっとり若者 U ターン・定住戦略本部会議(オンライン)	校長	山口 利幸
	26	米子工業高等専門学校への寄附金贈呈式	校長	山口 利幸
			副校長	山本 英樹
			校長補佐(学生)	藤井 雄三
			事務部長	平井 良昌
総務課長			田中 大輔	
学生課長			門脇 幸見	
12	2	とっとりプラットフォーム 5+α 第 25 回運営協議会	地域創生テクノセンター長	玉井 孝幸
	4	ふるさと納税を活用した地域活性化に係る連携協力に関する協定締結式	校長	山口 利幸
	18	第4回第4ブロック研究推進ボード委員会	地域創生テクノセンター長	玉井 孝幸
	20	第4回 SDGs (株)ワーパスから米子高専への寄付物品贈呈式	校長	山口 利幸
			校長補佐(学生)	藤井 雄三
事務部長			平井 良昌	
			他学生 2 名	
1	29	中国地区テクノセンター長等会議(Web 会議)	地域創生テクノセンター長	玉井 孝幸
2	4	第3回とっとり若者 U ターン・定住戦略本部会議(オンライン)	校長	山口 利幸
	20	令和 6 年度大山町企業連絡会議研修会	産学連携コーディネーター	山本 一志
			産学連携コーディネーター	永海 一夫
3	5	とっとり企業ガイダンス	産学連携コーディネーター	山本 一志
	13	地域創生人材育成・定着推進協議会(Web 会議)	校長	山口 利幸
			産学連携コーディネーター	山本 一志
14	とっとりプラットフォーム 5+α 第 25 回運営協議会	地域創生テクノセンター長	玉井 孝幸	

V. 地域共同研究開発推進事業

過去10年間の共同研究、受託研究、寄附金の件数と受入金額の推移を下图に示す。昨年度からの推移は、共同研究は件数・受入金額ともに減少した。受託研究については、件数は変わらなかったが受入金額は減少した。寄附金は件数・受入金額ともに増加した。



受託事業、補助金、科学研究費助成事業の件数と受入金額の推移を下図に示す。昨年度からの推移は、受託事業については、件数は減少したが受入金額は増加した。補助金については、件数は増加したが受入金額は減少した。科学研究費助成事業については、件数・受入金額ともに過去10年間で最多となった。



1. 共同研究

No.	担 当 者	研 究 課 題	申請書 受 付	CD 関与
-	E 桃野浩樹	回転楕円面メッシュ二次元表示型光電子分光装置 DELMA における光電子回折用制御プログラムの開発研究	R3.11.2	-
-	J 内田雅人	きのこ栽培における「AI モデルによる収穫量・作業工程予測システム」の研究	R5.2.1	山本
-	C 青木 薫	音声データの解析に関する技術支援	R5.3.2	-
-	C 技 *藤井貴敏 伊達勇介 磯山美華 青木 薫 日野英彦 濱田竜生	ファインバブルによる湖沼等水質・底質浄化技術実証研究	R5.4.25	-
-	J 森田一弘	シャッターの安全性向上(障害物感知機能の性能向上)	R5.5.9	-
-	J 内田雅人	AE センサを使用したギヤポンプの異常検知	R5.5.25	-
-	C 伊達勇介	廃棄物を利用したコンクリート製品の開発研究	R5.11.16	-
-	E 田中博美	半導体関連に寄与する SUS 材への表面技術の評価	R6.1.10	-
-	C 谷藤尚貴	皮膚・毛髪等の光による悪影響を卵殻膜で抑制する作用の解明	R6.2.21	-
1	E 技 *桃野浩樹 松本 充 山脇貴士	AI によるイルミネーションの点灯制御技術	R6.3.10	山本
2	E 技 *桃野浩樹 松本 充 山脇貴士	LED イルミネーションと音楽の融合	R6.3.10	山本
3	J 川戸聡也	植物情報を提供および更新するための Web システムの開発	R6.3.15	山本
4	C 伊達勇介	非公開	R6.5.1	山本
5	M C *早水庸隆 藤井貴敏	ウルトラファインバブル水による物理化学的洗浄法の開発	R6.7.5	-
6	E 松本正己	AI 画像認識を用いた駐車場来場者の分析	R6.7.29	山本

*は研究代表者

2. 受託研究

No.	担 当 者	研 究 課 題	申請書 受 付	CD 関与
-	J 徳光政弘	革新的衛星技術実証向けキューブサット試験データ取得及び技術評価		-
1	C M 技 *藤井貴敏・磯山美華・ 伊達勇介・青木 薫、 木下 大、日野英彦	中海に係る汚濁原因の調査及び研究	R6.3.21	-
2	C 技 *伊達勇介・磯山美華・ 藤井貴敏・青木 薫、 日野英彦	ヌカカ発生抑制対策効果検証試験	R6.3.21	-
3	C 技 *藤井貴敏・磯山美華・ 伊達勇介・青木 薫、 日野英彦	米子水鳥公園つばさ池に係る水質調査及び水質改善策の研究	R6.3.21	-
4	C 技 *伊達勇介・磯山美華・ 藤井貴敏・青木 薫、 日野英彦	境港市内ヌカカ生息状況調査	R6.4.17	-
5	C 技 *藤井貴敏・磯山美華・ 伊達勇介・青木 薫、 日野英彦	中海に係る窪地調査業務	R6.5.15	-
6	C 技 *藤井貴敏・磯山美華・ 伊達勇介・青木 薫、 日野英彦	中海に係る底質・間隙水調査業務	R6.5.15	-
7	C 技 *藤井貴敏・伊達勇介・ 磯山美華・青木 薫、 日野英彦	覆砂をした中海浚渫窪地の環境改善効果の検証	R6.5.28	-

*は研究代表者

3. 寄附金

No.	担 当 者	申 込 者	寄附の目的	申請書 受 付	CD 関与
1	E	田中博美	(公財)中国電力技術研究財団 省エネルギー型 μ MRI への応用を目指した高性能超電導接合の開発	R5.3.30	-
2	E	田中博美	(公財)中谷医工計測技術振興財団 地域文化を題材とする創造的プログラミング教育の実施～アート作品制作を通した新たな試み～	R6.4.4	-
3	C	谷藤尚貴	(公財)中谷医工計測技術振興財団 卵殻膜リサイクルによる新規エネルギー材料の開発	R6.4.4	-
4	C	谷藤尚貴	(公財)中国電力技術研究財団 「有機系正極活物質を用いた全個体電池作製による容量維持率の改善」に関する研究のため	R6.4.1	-
5	C	土田裕介	(公財)中国電力技術研究財団 「電子構造論に基づく、抽出－電解プロセスに適応可能な新たなイオン液体の探索」に関する研究のため	R6.4.1	-
6	E	田中博美	(公財)池谷科学技術振興財団 局所追加熱法およびホットプレス法による MgB ₂ 超電導接合の電気的結合度の改善	R6.4.4	-
7	技	日野英彦	合同会社オフィスきゃとる 小学校プログラミング教育の普及	R6.6.12	-
8	校長	山口利幸	米子瓦斯(株) 国際性の涵養および社会貢献できるグローバル人材の育成	R6.6.19	-
9	J	川戸聡也	(公財)マツダ財団 科学技術振興事業「3D プリンタと生成 AI を活用したものづくり体験による両技術の理解促進」のため	R6.6.24	-
10	校長	山口利幸	米子高専後援会 教育振興費	R6.6.28	-
11	校長	山口利幸	米子高専後援会 国際交流基金	R6.6.28	-
12	校長	山口利幸	米子高専後援会 米子工業高等専門学校運営のため	R6.6.28	-
13	テクノ	玉井孝幸	米子高専振興協力会 高専・振興協力会共同研究助成事業	R6.8.26	-
14	テクノ	玉井孝幸	米子高専振興協力会 産官学連携推進事業	R6.8.26	-
15	学生 課長	門脇幸見	米子高専振興協力会 高専行事支援(コンテスト支援)	R6.8.26	-
16	テクノ	玉井孝幸	米子高専振興協力会 人材確保支援事業	R6.8.26	-
17	テクノ	玉井孝幸	米子高専振興協力会 振興協力会事務運営費	R6.8.26	-
18	G	竹内彰継	(有)ニシモト 低輝度撮影技術の開発に関する研究助成	R6.9.10	-
19	校長	山口利幸	米子高専後援会 学生教育環境充実助成費	R6.9.17	-
20	M C	早水庸隆 藤井貴敏	王子製紙(株)米子工場 マイクロバブルを利用した活性汚泥処理に関する研究	R6.9.20	-
21	C	伊達勇介	高林産業(株) 伊達教員の無機材料に関する研究	R6.9.24	-
22	C	谷藤尚貴	(公財)長岡技術科学大学 技術開発教育研究振興会 物質工学専攻 1 年 篠田和希の「有機化合物を正極活物質に導入した高性能全固体電池の開発」に関する研究助成のため	R6.8.29	-
23	A	玉井孝幸	(株)建築資料研究社 全国高専デザコンに関する費用	R6.10.18	-
24	A	玉井孝幸	美保テクノス(株) 玉井孝幸教授の教育・研究に関する費用	R6.10.18	-
25	校長	山口利幸	西田 則 米子高専・学生支援のため	R6.11.13	-
26	校長	山口利幸	アイ・システム(株) 米子高専の教育支援	R6.11.19	-
27	M	木下 大	(株)アイズ ロボット技術の研究助成	R7.1.29	-
28	J	中山繁生	(公財)NSK メカトロニクス 技術高度化財団 メカトロニクス技術教育への支援	R7.2.3	-
29	C	谷藤尚貴	(有)ルウ研究所 食品廃棄物のリサイクル研究	R7.2.4	-
30	校長	山口利幸	米子高専後援会 学生教育環境充実助成費	R7.2.10	-
31	M	早水庸隆	MHI ソリューションテクノ ロジーズ(株) 総合工学科 機械システムコースの教育・実習のため	R7.2.21	-
32	J	森田一弘	MHI ソリューションテクノ ロジーズ(株) 総合工学科 情報システムコースの教育・実習のため	R7.2.21	-
33	M 技	早水庸隆 濱田竜生	(有)ニシモト マイクロバブル発生技術開発に関する助成	R7.2.21	-

4. 受託事業

No.	担 当 者		事 業 名	契 約 年月日	CD 関与
1	J	徳光政弘	全国高専宇宙工学コース設立による実践的宇宙人材育成の展開 (宇宙航空人材育成プログラム)	R6.4.1	-
2	C	梶間由幸	【ジュニアドクター育成塾】KOSEN 教育の強みを最大限に活かした科学に熱狂的な情熱 を持つジュニアドクターの育成	R6.4.1	-

5. 補助金

No.	担 当 者		交 付 者	研 究 等 課 題	交 付 決定日	CD 関与
1	M	木下 大	経済産業省 (事業管理機関:鳥取 県産業振興機構)	界面温度・接合強度推定により信頼性の高い金属樹脂接合を 容易に実現する摩擦熱異材接合システムの開発 (成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech 事業))	R6.4.1	-
2	G	堀畑佳宏	鳥取県	楽しむ科学まなび事業補助金	R6.5.29	-
3	C	田中 晋	鳥取県	学生による「県内定着学生プラットフォーム」活動補助金	R6.12.25	-

6. 科学研究費助成事業

No.	担 当 者		代表者(分担の場合)	研 究 課 題	研究 期間	種目
1	J	山本英樹	-	水分凍結時の誘電率変化を用いた食品等貯蔵物の凍結検出シ ステムの開発	R2～6	基 C
2	G	渡邊 健	-	近世後期の鳥取の和歌に関する資料調査と総合的研究	R2～6	基 C
3	C	村田和加恵	-	ミトコンドリアの形態異常に起因する諸疾患に対する新規ターゲ ットとしての微小管	R3～6	若手
4	C	土田裕介	-	電子構造論に基づく貴金属回収に有効な抽出剤スクリーニング モデルの構築	R4～6	ス支
5	A	小椋弘佳	-	地方商業空間に生み出されるパブリックスペースの地域拠点とし ての役割と発展性の解明	R3～6	若手
6	M	矢壁正樹	-	超音波によるすべり軸受の油膜厚さ測定に関する研究	R4～6	基 C
7	J	角田直輝	-	太陽光発電投資教材の開発およびキャリア教育・金融教育的効果 の実証	R4～6	基 C
8	A	荒木菜見子	-	わが国戦中戦後の米子における市街地の形成と変容に関する研究	R4～6	若手
9	G	堀畑佳宏	-	数学的態度によるリベラルアーツの現代的再構築と教育への応 用研究	R4～6	萌芽
10	G	鈴木章子	-	高校生段階における統合型ライティングの導入とそのパフォーマンス の検証	R5～9	基 C
11	E	田中博美	-	ヘリウムフリー μ MRI 実現を目指した多重加熱法による MgB ₂ 超 伝導接合の臨界電流改善	R5～7	基 C
12	A	北農幸生	-	木造建築物接合部の地震時復元力特性のモデル化と振動台実験 による再現性の検証	R5～8	基 C
13	C	礪山美華	-	環境水中の亜硝酸イオンおよび硝酸イオンの同時計測ペーパー デバイスの開発	R5～7	基 C
14	J	徳光政弘	-	超小型衛星内部のワイヤーハーネス削減のための超小型衛星 向け光無線バスの試作と評価	R5～7	基 C
15	C	伊達勇介	-	水中の溶存ホウ素の検出を可能にする新規センサ材の創製とそ の検知機構の解明	R5～8	若手

No.	担 当 者		代表者(分担の場合)	研 究 課 題	研究 期間	種目
16	C	清水剛志	-	金属有機構造体を正極材料としたカルシウムイオン電池の開発	R5～6	若手
17	G	渡邊 健	-	近世後期の鳥取の和歌における国学者の役割と地域歌壇の展開についての新考察	R6～9	基 C
18	G	中島美智子	-	SDGs を見据えた理工系学生のための環境教育プログラムの開発	R6～8	基 C
19	M	早水庸隆	-	ファインバブル水のプラズマ界面反応現象を用いた革新的アンモニア合成法の開発	R6～8	基 C
20	E	石倉規雄	-	天候が悪い地域でも活用できる AI を用いた太陽光発電システムの自動故障検出	R6～8	基 C
21	C	土田裕介	-	抽出剤の性能予測モデルに基づいた新規イオン液体の合成と貴金属の相互分離への応用	R6～8	基 C
22	C	梶間由幸	-	アップコンバージョン法を利用した細胞深部がんに対する光線力学療法の確立	R6～8	基 C
23	技	松本 充	-	ドローンプログラミングによる空間認識力の向上を目指した教材開発	R6	奨励
24	G	辻 秀平	-	「鎌倉文庫」に関する基礎的研究:出版活動を巡る人的ネットワークの解明を中心に	R6～7	ス支
25	G	原 遼平	-	近代交通機関の発達に伴う旅行の変化―北陸・山陰地域を事例に―	R6～7	ス支
26	G	姉川尊徳	-	膨張宇宙での量子重力理論における新境地の開拓	R6～7	ス支
27	C	清水剛志	関西学院大学 吉川 浩史	ポストリチウムイオン電池を指向した有機電極材料の開発と応用	R6～8	基 B
28	A	小椋弘佳	島根大学 細田 智久	山間地域自治体における合併・公共施設再編タイプ別の再編効果と地域コミュニティ維持	R6～9	基 B
29	G	秋田裕太	高知大学 矢野 宏光	武道で知的障害児の心を育めるか?:特別支援教育で実践する新たな剣道授業の開発	R5～7	萌芽
30	E	桃野浩樹	宮崎産業経営大学 本村 信一	タイポグリセミア現象に対する多面的検証実験と生体計測に基づくアプローチ	R5～7	基 C
31	C	藤井貴敏	米子高専 早水 庸隆	ファインバブル水のプラズマ界面反応現象を用いた革新的アンモニア合成法の開発	R6～8	基 C
32	J	徳光政弘	新居浜高専 若林 誠	高校生から始める汎用衛星モデルによる実践的衛星開発カリキュラム実現に向けた研究	R6～7	基 B
33	C	谷藤尚貴	小山高専 加藤 岳仁	革新的キャリアマネージメント機構の創出による超高効率塗布型太陽電池の創製	R6～7	基 B
34	G	大野政人	石川高専 南 雅樹	国立高専機構モデルコアカリキュラムにおける保健体育の教育的位置づけを再考する	R6～8	基 C
35	A	荒木菜見子	神戸女子大学 中川 理	わが国都市の計画事業実施その後の歴史を捉える都市史研究の開拓	R6～7	基 B

7. 地域共同技術研究・開発援助費

No.	申 請 者		共 同 研 究 題 目	研究終了予定
1	E	田中博美	ムラサキウニによる磯焼け被害の低減を目指した物体検出法の開発	R7 年度末
2	C	谷藤尚貴	ジビエ肉の氷温処理による品質向上と商品開発	R6 年度末
3	A	川中彰平	ハニカム合板ブロックの防虫性能に関する基礎研究	R7 年度末

VI. 地域共同教育事業

1. 公開講座・出前講座・連携講座

本校では地域貢献、青少年への科学技術教育、生涯学習などを目的に、小中学生から社会人までを対象とした各種講座を実施している。受講者アンケートの結果では、5段階評価中の上位「大変満足」「まあまあ満足」が多くを占めており、高い満足度が得られている。

【発行：2024.5】 ～令和6年度版～ 2024.6～2024.12

イベントのご案内 米子高専 公開講座

米子工業高等専門学校は、中学校卒業者を対象に5年一貫の教育を行うことにより、日本の工業を支える技術者を養成することを基本的な目標としています。本年度も地域社会との連携を深めるために、地域の皆様方の生涯学習に資する「公開講座」を以下の通り実施いたします。

近年のいわゆる「理科離れ」に対応する、小・中学生等対象の科学教室などを用意いたしました。内容は、多くが予備知識を必要としない、わかりやすいものとしております。地域の皆様のご参加をお待ちしております。

※記載内容については変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

★講座一覧★

受講対象者マーク 小学生 中学生 高校生 ◎詳細はホームページをご覧ください

自己分析をして勉強の目標を明確にしよう！

あなたが勉強をする目的は何ですか？この講座では、豊かな日々を過ごすため、皆さんが興味・関心のあることを思い起こしてもらい、具体的な目標設定をします！このような作業を「自己分析」といいます。講師が手伝いながら勉強の目標を具体化させますので、「目標なんてあまり思いつかないなあ」という生徒さんも歓迎です！目標設定すると視野が広がり、日々の勉強へのモチベーションを上げることができるようになります。技術者を目指す生徒さんにお勧めです！

日時：令和6年6月29日（土）9：30～15：30
対象：中学生（保護者見学可）
定員：4名
受付期間：令和6年6月4日（火）～6月14日（金）

手軽にものづくり♪3Dプリンタでキーホルダーを作ろう！

立体物を手軽に造形（印刷）可能な3Dプリンタが普及してきました。本講座ではまず、コンピュータで図形を加工することで、キーホルダーとなる簡単な物体を作成（モデリング）します。そして、実際に3Dプリンタで印刷することで、モデリングの方法や3Dプリンタの仕組みについて学びます。もちろん、印刷したキーホルダーは持ち帰りできます。

日時：令和6年7月20日（土）
①10：00～12：00 / ②13：30～15：30
対象：小学5・6年生～高校生（保護者見学可・小学生は保護者必須）
定員：①②各8名
受付期間：令和6年6月25日（火）～7月5日（金）

LEDランタンを改造（自動点滅）しよう

市販されているLEDランタンを改造し、周りが暗くなると自動でランプが点灯するランタンを作ります。電子部品を取り付ける作業を通して、電子回路の仕組みを学びます。

日時：令和6年7月21日（日）10：00～12：00
対象：小学生（保護者見学可）
定員：10名
受付期間：令和6年6月25日（火）～7月5日（金）

親子ふれあい科学教室2024

子どもたちのあふれるばかりの不思議・驚きに応えるべく、親子で楽しめる「電子工作」「化学実験」をご用意しました。子どもはたくさん疑問を思いつく、その不思議を周りの人に「どうして？」「なぜなの？」と発信し続けています。身近な科学の面白さや不思議を体験し、親子でワクワクを共有していませんか？親子の絆を深めるよい機会です。親子の対話のきっかけ作りに参加してみませんか？

日時：令和6年7月27日（土）9：45～14：30
対象：小学5・6年生とその保護者（保護者必須）
定員：親子20組40名
受付期間：令和6年7月2日（火）～7月12日（金）

一令和6年度版～2024.6～2024.12 【発行：2024.5】

米子高専 出前講座

米子工業高等専門学校では、青少年への科学・技術教育及び地域社会への貢献・情報発信を目的として「出前講座」を実施しています。「出前講座」は、本校教職員が地域に出向き、生涯学習事業・学校活動等に役立てていただくとするものです。

本年度は、小中学生及び一般を対象に「科学」「ものづくり」などをテーマにメニューを用意しました。授業の一環、課外活動、PTA活動や地域の公民館活動、企業における福利厚生活動等に是非ともご利用いただけますようご案内申し上げます。

※記載内容については変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

★各講座の詳細はホームページ（https://www.yonago-kac.jp/center/delivery_guide/）に掲載しています

1 静電気でおどるクラゲを作ろう

対象：小学生
実施回数：年3回（8/19～26のうち）
所要時間：約90分
費用負担：約200円/人・講師の交通費
人数：20人まで

2 手軽にものづくり♪3Dプリンタでキーホルダーを作ろう！

対象：小学生～高校生・一般
必須事項：インターネット環境、プロジェクタ（仮相談）
所要時間：約120～180分
費用負担：材料費（約3,000円）・講師の交通費
人数：8人まで（仮相談）

3 動画の生成AIって何？実際に活用することで生成AIについて学ぼう！

対象：中学生～高校生・一般
必須事項：インターネット環境、プロジェクタ（仮相談）
所要時間：約60～120分
費用負担：講師の交通費
人数：8人まで（仮相談）

4 科学体験教室 化学分野

対象：小学4年生～高校生
実施回数：年12回
所要時間：約90～120分
費用負担：実験材料費（約2,000円～15,000円）・講師の交通費
人数：仮相談

5 科学じっけん教室：未来のはかせを目指そう！

対象：小学生～中学生
実施回数：年3回
所要時間：約60～120分
費用負担：実験材料費（約1,000～5,000円）・講師の交通費
人数：20人まで

6 インテリア雑貨・季節のリースを作ろう！

対象：小学生～高校生・一般
実施回数：年1回
所要時間：約60～90分
費用負担：約400円/人・講師の交通費
人数：10人まで

7 ジオラマを作ろう！

対象：小学生～高校生・一般
実施回数：年7回
所要時間：約60～90分
費用負担：約400円/人・講師の交通費
人数：10人まで

8 リサイクル工作でインテリア雑貨を作ろう！

対象：小学生～高校生・一般
①フォトフレーム ②ランプシェード ③時計
実施回数：年7回（①②③の中から1～2種類が選べます）
所要時間：約60～90分
費用負担：約200円～2600円 ③8000円/人・講師の交通費
人数：15人まで

※あくまで目安です。テーマや人数によって変わりますので、予算につきましてはご相談ください。

地域創生テクノセンター発行／令和6年度 公開講座・出前講座チラシ（一部抜粋）



【公開講座】

「手軽にものづくり♪3Dプリンタでキーホルダーを作ろう！」
PCで図形を加工し、キーホルダーとなる簡単な物体をモデリングした後、実際に3Dプリンタで印刷することで、モデリングの方法や3Dプリンタの仕組みについて学んだ。印刷したキーホルダーは持ち帰りでき、大変好評だった。

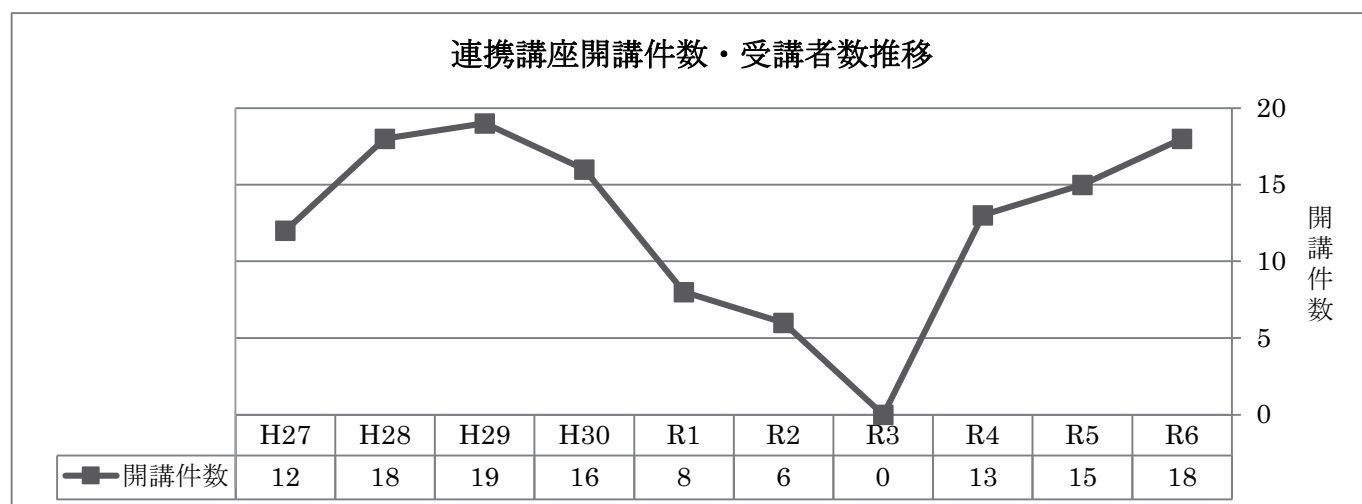
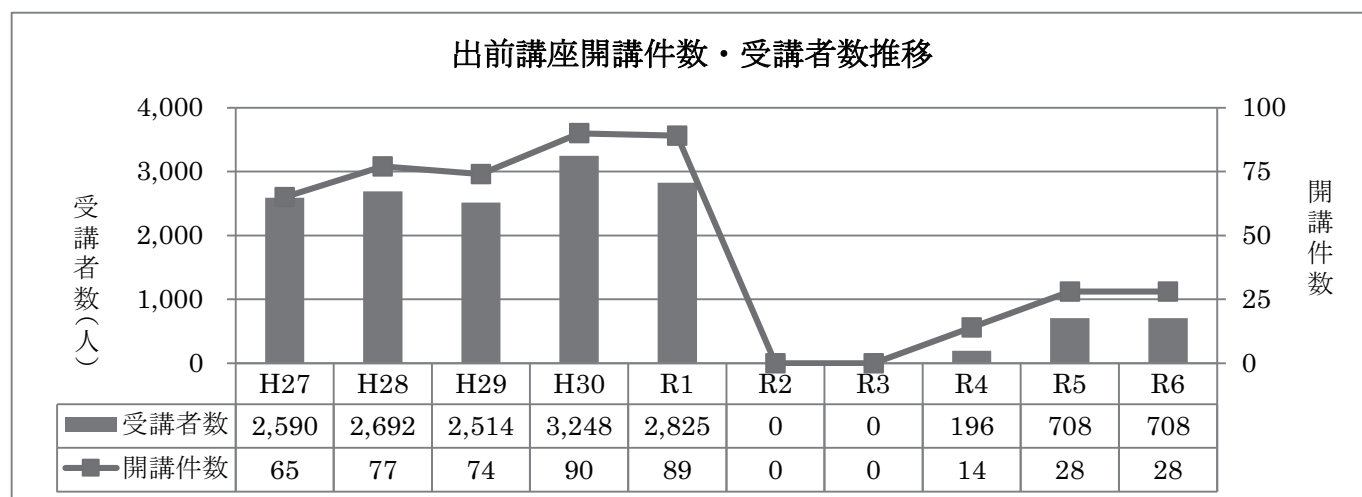
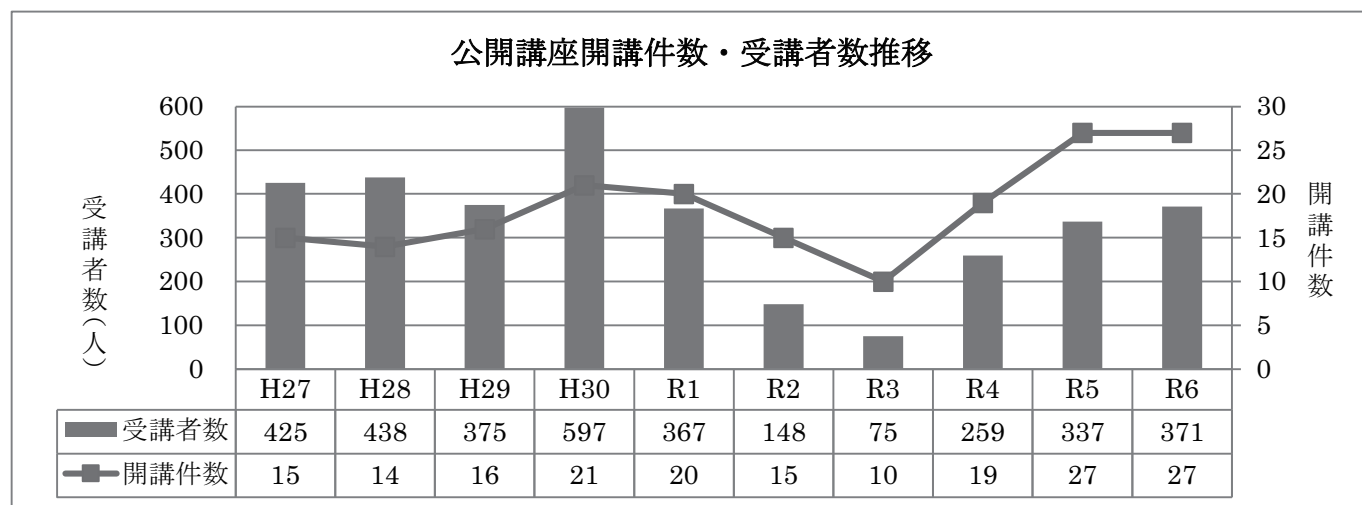


【連携講座】

「リサイクル工作でインテリア雑貨を作ろう！」
松ぼっくりや自然素材、リサイクル材料を用いたクリスマスツリーを作成した。捨ててしまいたいようなものでも工作の材料になるのがよく分かり、家でも作ってみたいとの感想があった。

公開講座・出前講座・連携講座の開講件数と受講者数の推移（過去10年）

公開講座・出前講座・連携講座の受講者数と件数の推移を下図に示す。公開講座は新しい講座を多数実施し、昨年に引き続き過去最多の開講件数となった。出前講座は開講回数を定めて募集しているが、受付開始直後に上限に達する講座が出るなど高い人気がある。連携講座はコロナ禍以前の開講件数へと回復した。



※連携講座は、大型イベント等への参加もあるため、受講者数はカウントしない

公開講座

No.	イベント名		開催日時		開催会場等	対象	参加人数	担当教員等	満足度(%)
1	自己分析をして勉強の目標を明確にしよう！		6/29 (土)	9:30～15:30	米子高专	中学生	4名	J 角田	100
2	エンジョイ科学館	機械システム館	7/13 (土)	10:00～15:00	米子高专	中学生	16名	M 権田(岳)・木下・益田	98.9
		電気電子館					17名	E 宮田・権田(英)・新田・浅倉・石倉・桃野・足立	
		情報システム館					11名	J 井上・内田	
		科学捜査館					17名	C 村田・土田	
		建築模型館					16名	A 前原 上田・門脇	
		数学館					15名	G 柴田・古清水	
3	手軽にものづくり♪3D プリンタでキーホルダーを作ろう！①		7/20 (土)	10:00～12:00	米子高专	小学5・6年生、 中学生～高校生	9名	J 川戸	100
4	手軽にものづくり♪3D プリンタでキーホルダーを作ろう！②		7/20 (土)	13:30～15:30	米子高专	小学5・6年生、 中学生～高校生	7名	J 川戸	100
5	LED ランタンを改造(自動点滅)しよう		7/21 (日)	10:00～12:00	米子高专	小学生	12名	E 足立	100
6	親子ふれあい科学教室 2024		7/27 (土)	9:45～14:30	米子高专	小学5・6年生と その保護者	20組 40名	E 権田(英)・宮田・石倉・齋木 C 伊達・藤井(貴)	100
7	親子で楽しくイルミネーションをプログラミングしよう		7/28 (日)	13:00～17:00	米子高专	小学4～6年生	14組 33名	松本(充)・横田・山脇・門脇	100
8	リサイクル工作『フォトフレーム』を作ろう！		8/3 (土)	10:00～12:00	米子高专	小学生	15名	上田、A 西川	92
9	リサイクル工作『ランプシェード』を作ろう！		8/4 (日)	10:00～12:00	米子高专	小学生	15名	上田	93
10	環境を考えよう！鳥取県産材を使って貯金箱を作ろう!!		8/17 (土)	13:00～15:00	米子高专	小学3～6年生	7名	門脇・横田・森	100
11	インテリア雑貨『ドールハウスな時計』を作ろう！		8/24 (土)	10:00～12:00	米子高专	小学生	10名	上田、A 西川	90
12	身近なものを使ってアップサイクル！ペットボトルキャップを使ってアクセサリを作ろう！		8/24 (土)	13:00～15:00	米子高专	小学3～6年生	10名	門脇・齋木・濱田	100
13	Python により本格的なプログラミングの基礎を学ぼう！①		8/25 (日)	10:00～12:00	米子高专	小学5・6年生、 中学生～高校生	15名	J 川戸	100
14	Python により本格的なプログラミングの基礎を学ぼう！②		8/25 (日)	13:30～15:30	米子高专	小学5・6年生、 中学生～高校生	13名	J 川戸	100
15	Python によるプログラミングにより簡素なゲームを作ってみよう！		9/21 (土)	13:30～16:00	米子高专	小学5・6年生、 中学生～高校生	16名	J 川戸	93
16	君もハッカーに！？ハッキング体験で情報セキュリティについて学ぼう！		9/22 (日)	13:30～16:30	米子高专	中学生～高校生	16名	J 川戸	87
17	身の回りの医薬品		9/28 (土)	9:30～15:00	米子高专	中学生	9名	C 梶間	100
18	Python による数値計算とグラフ描画を通して資産形成について学ぼう！		9/29 (日)	13:30～16:00	米子高专	小学5・6年生、 中学生～高校生	6名	J 川戸	100
19	『ハロウィンのジオラマ』を作ろう！		10/12 (土)	10:00～12:00	米子高专	小学生～高校生	10名	上田	100
20	インテリア雑貨『クリスマスリース』を作ろう！		11/16 (土)	10:00～12:00	米子高专	小学生～高校生	7名	上田	100
21	米子高专における情報系分野の授業を体験しよう！		11/24 (日)	13:30～15:30	米子高专	中学生	16名	J 川戸	100
22	話題の生成 AI って何？実際に利用することで生成 AI について学ぼう！		12/22 (日)	13:30～15:30	米子高专	中学生～高校生	9名	J 川戸	100

エンジョイ科学館

日 時 令和6年7月13日（土）10:00～15:00

場 所 米子高専

対 象 中学生

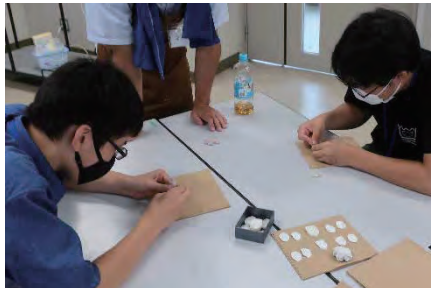
内 容 本校の専門性を生かした講座を通じてものづくりの楽しさを体験してもらい、科学への興味や学習意欲を高めることなどを目的として、平成7年度から中学生向け体験イベント「エンジョイ科学館」を実施している。令和6年度は、「機械システム館」「電気電子館」「情報システム館」「科学捜査館」「建築模型館」「数学館」の6講座を開講し、鳥取・島根の中学生を中心に92名が参加した。オープンキャンパスとは違い中学1・2年生も参加できることもあり、毎年人気のイベントとなっている。

担当講師や補助の高専生に教えてもらいながら、ハンダ付けやコンピュータのプログラミング、試薬を使った科学実験などに挑戦した。参加者からは「小さい部品を組み立て、成功したのが楽しかった。（電気電子館）」「プログラミングは難しそうとしか思っていなかったけど、やってみると自分でもできて楽しかった。（情報システム館）」などそれぞれの館に対する感想のほか、「とても楽しく、貴重な体験ができて良かった」「先生や学生の方が優しく教えてくれた」「進路の参考になって良かった」など高評価を得た。



【開講式】

参加者92名が一堂に会した開講式のあと、受講する各館の教室へ移動した。



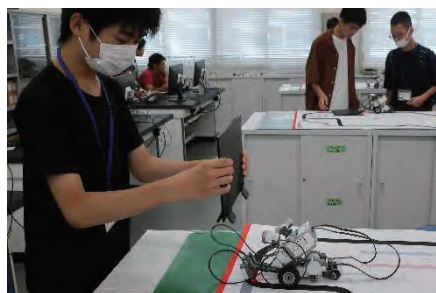
【機械システム館】

焼くと固まる銀粘土を使ってぴかぴかのシルバーチャーム作りにチャレンジした。



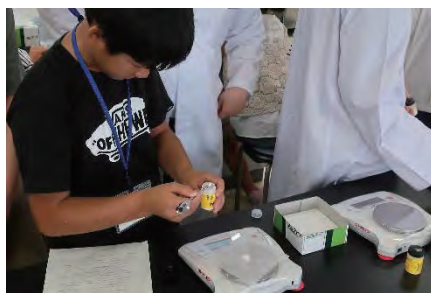
【電気電子館】

ハンダ付けを行い、マイコンと対戦するじゃんけんゲーム機を作成した。



【情報システム館】

ロボットをプログラミングし、周囲の情報をセンサで検知させて指定のコースを走行する課題にチャレンジした。



【科学捜査館】

科学捜査の最新技術「DNA鑑定」で容疑者の中から真犯人を探し出した。また、いろいろな物質の形も調べた。



【建築模型館】

様々な道具や材料を使って、自分が考える夏涼しい家の模型を作り、電球の光をあて内部の温度の上昇を確かめた。



【数学館】

手を動かして遊べる身近なパズルやゲームを通じて数学を学んだ。

出前講座

講 座 名	開 催 日 時		会 場	対 象	参加 者数	担 当 者	満足度 (%)
静電気でおどるクラゲを作ろう	8/3(土)	10:00～ 11:30	ヴィレステひえづ	小 1～6	11	E 足立・宮田・石倉	100
	8/23(金)	13:00～ 14:30	キッズクラブハレカイ	小 1～6	49	E 足立・宮田・石倉	98
	8/26(月)	10:00～ 11:30	岸本公民館	小 3～6	12	E 足立・宮田・石倉	100
手軽にものづくり♪ 3D プリンターでキーホルダーを作ろう！	7/30(火)	9:30～ 12:00	境公民館	小 4～6	10	J 川戸	100
科学体験教室 化学分野	7/17(水)	10:00～ 12:00	松江養護学校 安来分教室	高 1～2	9	C 田中(晋)・藤井(貴)	100
	7/20(土)	9:30～ 11:30	上道小学校	小 4	28	C 谷藤・村田	100
	7/26(金)	9:30～ 11:00	松江市立意東小学校	小 5	34	C 粂間・伊達	100
	8/20(火)	10:00～ 12:00	車尾公民館	小 4～6	15	C 青木、日野	100
	8/24(土)	13:00～ 16:00	成実小学校	小 4	23	C 田中(晋)・土田	96
	8/27(火)	13:30～ 15:00	西伯小学校	小 5	35	C 伊達・青木	100
	9/7(土)	10:00～ 11:40	日吉津小学校	小 6	17	C 小川・礪山	100
	9/28(土)	10:00～ 12:00	福米東小学校	小 4	43	C 藤井(雄)・土田	100
	10/26(土)	14:00～ 16:00	住吉小学校	小 4	34	C 藤井(貴)・谷藤	100
科学じっけん教室 :未来のはかせを目指そう！	8/2(金)	13:00～ 15:00	義方小学校	小 1～6	28	C 谷藤	100
	8/6(火)	13:30～ 15:00	キナルなんぶ	小 1～6	27	C 谷藤	100
	8/7(水)	13:30～ 15:00	こどもデイサービスわこう住吉	小 1～6	13	C 谷藤	100
	8/20(火)	10:00～ 12:00	県公民館	小 1～6	18	C 谷藤	100
	8/21(水)	9:30～ 11:00	加茂公民館	小 1～6	19	C 谷藤	100
	8/26(月)	9:30～ 11:00	境公民館	小 4～6	17	C 谷藤	88
インテリア雑貨 -季節のリースを作ろう！	8/1(木)	10:00～ 12:00	富益公民館	小 1～2	6	上田	100
ジオラマを作ろう！	7/25(木)	14:00～ 16:00	明道小学校	小 4～6	11	上田	100
	11/30(土)	13:30～ 15:30	江府町立図書館	小 1～6	8	上田	100
リサイクル工作でインテリア雑 貨を作ろう！	8/7(水)	10:00～ 12:00	外江ふれあい会館	小 1～6	10	上田	100
	8/20(火)	9:30～ 11:30	伯耆しあわせの郷	小 3～6	13	上田	100
	8/23(金)	9:30～ 11:30	境公民館	小 1～6	13	上田	100
	8/27(火)	10:00～ 12:00	彦名公民館	小 1～6	15	上田	100
	9/28(土)	10:00～ 12:00	二部公民館たたら会館	小 1～6	8	上田	100
	11/10(日)	13:00～ 14:30	福生西小学校	小 1～6	20	上田	100

連携講座

	イ ベ ント 名	開 催 日 時		会 場	対 象	参加者数	担 当 者	満足度 (%)
1	春の工作教室	5/18 (土)	10:00～ 12:00	境港市民交流センター	小1～6	14	上田	100
2	【米子高専デジタル教室 in とっとり花回廊】3Dプリンタでものづくり！キーホルダーを作ろう♪生成 AI を使うかも？	7/15 (月)	13:00～ 14:30 14:45～ 16:15	とっとり花回廊	小中学生	12	J 川戸	100
3	【ふれあい交流「e フェス in 彦名」】トイドローンの操縦体験	7/17 (水)	8:30～ 11:30	彦名小学校	小3～6	14	E 田中(博)	-
4	【ふれあい交流「e フェス in 彦名」】動かして学ぶプログラミング入門					47	E 桃野、松本(充)・岸・山脇	98
5	とっとりみらい art&cultureFESTIVAL	7/20 (土)	10:00～ 16:00	AEON モール 日吉津	未就学児～中高生、一般	100 名以上	J 井上	-
		7/21 (日)	10:00～ 16:00					-
6	夏のリサイクル工作教室	7/27 (土)	10:00～ 12:00	境港市民交流センター	小1～6	14	上田	100
7	【R6 年度米子高専・米子市文化財団連携事業】リサイクル工作でインテリア雑貨を作ろう！	8/6 (火)	14:00～ 15:30	米子市公会堂	小1～6	6	上田	100
8	天体観望会	8/12 (月)	18:30～ 20:30	とっとり花回廊	小1～6	19	G 竹内	-
9	【R6 年度米子高専・米子市文化財団連携事業】リサイクル工作『ランプシェード』を作ろう！	8/19 (月)	14:00～ 15:30	淀江文化センター	小1～6	13	上田	100
10	【日野町連携講座】科学じっけん教室：未来のはかせを目指そう！	8/22 (木)	10:00～ 11:30	日野学園	小1～6	18	C 谷藤	100
		8/22 (木)	13:30～ 15:00	日野学園	小1～6	17	C 谷藤	100
11	2024 木の住まいフェア「鳥取県産材を使って貯金箱を作ろう！」	9/28 (土)	10:00～ 16:00	鳥取県立米子産業体育館	未就学児～社会人	746	門脇・横田	89.6
12	未来のはかせを目指そう！	11/10 (日)	10:00～ 12:00	米子市児童文化センター	小1～6	20	C 谷藤	100
13	冬の工作教室	11/23 (土)	10:00～ 11:30	境港市民交流センター	小1～6	16	上田	93.8
14	【米子高専デジタル教室 in とっとり花回廊】イルミネーションをプログラミングしよう	11/30 (土)	10:00～ 12:00 14:00～ 16:00	とっとり花回廊	小3 以上	16	松本(充)	100
15	【わかとり科学虎の穴】デジタル置時計を作ろう！	12/8 (日)	10:00～ 12:00	米子高専	中2～3	7	E 権田(英)・足立・奥雲	100
16	【わかとり科学虎の穴】ブラックウォールをつくろう～偏光フィルムをつかったおもちゃづくり～	12/15 (日)	9:30～ 10:30 11:00～ 12:00	リモート開催	小1～6	14	C 田中(晋)	-
17	【ものづくり道場】3D ホログラムのようなものをつくろう～ハーフミラーを使った工作～	12/15 (日)	13:00～ 15:00	米子市児童文化センター	高1	1	C 田中(晋)	-
18	【高専 STEAM プロジェクト】光×アート×プログラミングの STEAM 授業	2/13 (木)	13:20～ 15:00	湊山中学校	中1	24	E 田中(博)	92
		2/17 (月)	13:20～ 15:00	湊山中学校	中1	61	E 田中(博)	100
19	【米子高専デジタル教室 in とっとり花回廊】3Dプリンタでものづくり！キーホルダーを作ろう♪生成 AI を使うかも？	3/29 (土)	13:00～ 14:30 14:45～ 16:15	とっとり花回廊	小中学生	8	J 川戸	-

その他

	イ ベ ント 名	開 催 日 時		会 場	対 象	参加者数	担 当 者	満足度 (%)
1	とっとりサイエンスワールド 2024 (中部地区)	7/21 (日)	12:00～16:00	倉吉未来中心	小・中学生と保護者	194	G 堀畑・古清水・柴田・M 藤田、E 石倉、J 角田、C 伊達・A 藤原、山脇・齋木・門脇	97
2	とっとりサイエンスワールド 2024 (西部地区)	8/18 (日)	11:00～16:00	米子コンベンションセンター	小・中学生と保護者	271	G 堀畑・柴田・M 藤田・木下、E 石倉、J 角田、C 伊達・藤井(貴)、山脇・齋木・門脇	98
3	とっとりサイエンスワールド 2024 (東部地区)	8/25 (日)	13:00～16:00	とりぎん文化会館	小・中学生と保護者	139	G 堀畑・柴田・M 藤田、E 石倉、C 伊達・藤井(貴)、山脇・齋木・門脇	97

VII. 情報発信事業

1. 一般教養番組「米子高専知的セミナー」

平成 23 年 3 月から、中海テレビをはじめとする地元ケーブルテレビ・ネットワーク網を利用した「鳥取県民チャンネル」で、一般教養番組「米子高専知的セミナー」（15 分番組）を放送している。本年度も引き続き本校の様々な分野の教職員が、普段の生活の中で役立つ話や教養を高める話題を取り上げた。

なお、放送された番組は、「鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会」ホームページの「動画コンテンツ」にアップされている。

（鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会ホームページ： https://tottorikenmin-ch.com/archives/movie_type/kosen）

米子高専知的セミナー 令和 6 年度 放送内容一覧

放送月	内容	担当		
4 月	全国高専デザコン 2023 構造デザイン部門 最優秀賞受賞学生たちの活躍	建築デザイン部門	教 授	北農 幸生
6 月	世界的な選挙の年 主要国に注目	教養教育部門(社会)	教 授	加藤 博和
8 月	仁風閣の小屋組について	建築デザイン部門	講 師	荒木菜見子
10 月	天体観測用分光器を自作しよう！	教養教育部門(物理)	教 授	竹内 彰継
12 月	数学を通じて自由になろう！	教養教育部門(数学)	准教授	堀畑 佳宏
2 月	数学を通じて自由になろう！②	教養教育部門(数学)	准教授	堀畑 佳宏

VIII. その他

1. 地域創生テクノセンター運営委員会

日 時 第 1 回 令和 7 年 1 月 15 日（水）～21 日（火）

第 2 回 令和 7 年 3 月 27 日（木）

会 場 メール審議による開催(第 1 回)、米子高専 小会議室(第 2 回)

内 容 地域創生テクノセンター運営委員会は、地域創生テクノセンターの運営、事業、その他重要な事項について審議する組織として平成 21 年に設置された。令和 6 年度は玉井センター長、川邊副センター長、角田センター長補、各部門委員である機械システム部門 上原 一剛 教授、電気電子部門 新田 陽一 教授、化学・バイオ部門 藤井 貴敏 准教授が主な構成員となり開催された。第 1 回は、テクノセンター研究助成金制度の改訂や校内助成金の配分等について審議された。第 2 回は、令和 7 年度予算及び事業計画や、地域共同技術研究・開発援助費について審議された。

2. FD・SD研修会

・科研費関係

- 日時 令和6年7月17日（水）15:00～16:20
- 会場 Microsoft Teams によるオンライン開催
- 講話1 「アイデアを申請書に落とし込むためのメソッド」
- 講師 長岡技術科学大学 技術科学イノベーション専攻
中山 忠親 教授
- 講話2 「科研費を科学する」
- 講師 長岡高専 校長補佐（研究推進担当）地域創生教育研究推進室長 環境都市工学科
村上 祐貴 教授
- 内容 高専機構教職員に対し、令和7年度科研費採択に向けて、研究計画調書の作成にあたってのポイント等についての理解を深めるとともに、研究者として遵守すべきルールについて認識を深めることを目的として開催された。本校からは教職員18名が参加した。

3. 米子高専生のための進路研究セミナー

- 日時 令和6年12月21日（土）9:30～16:00
- 会場 鳥取県立武道館（米子市両三柳 3192-14）
- 内容 本セミナーは、企業・大学の担当者から直接話を聞き、企業内での高専生の活躍などを知ることができる貴重な機会であり、就職活動やインターンシップ等への理解を深める場として平成19年度から実施している。米子高専の当年度本科求人倍率29.8倍、専攻科求人倍率100倍超えという高い求人倍率を反映し、単独高専の開催としては全国最大級で行っているものである。今年度は237ブース（米子高専振興協力会会員企業75社、一般企業145社、大学及び大学院13ブース・地元自治体等4団体）での実施となり、本校の本科3・4年生、専攻科1年生及び保護者ら約400名が参加した。

4. 米子高専技術シーズ集2024の発行

米子高専教員の研究内容や技術相談対応可能分野等を掲載し、本校の保有するシーズを広く校外の方々へ周知するために、技術シーズ集の令和6年度版を発行した。令和3年度からは新たにSDGsとの関連を各教員ページと巻末に記載した。

また、重点課題のひとつである鳥取大学医学部との医工連携推進を受け、医療福祉機器分野における連携や新技術の創出を目的として、医工連携関係シーズも掲載している。

米子高専生のための進路研究セミナーリーフレット

技術シーズ集2024



IX. 報道等

1. 米子工業高等専門学校広報誌（彦名通信）抜粋

・彦名通信 vol. 213 令和 6 年 6 月発行（キャリア支援室、地域創生テクノセンター）

キャリア支援室

キャリア支援室長 大塚 宏一

キャリア支援室は工場見学、就業体験（インターンシップ）、進路研究セミナーなどの機会を提供し、学生一人ひとりが自分のキャリアについて自律的に考え、選択していけるように、また望ましい職業観、勤労観を持つことができるように本校学生への支援を行なっています。就職・採用活動においては 2024 年度以降から一定の条件を満たしたインターンシップで取得した学生情報を企業が採用に活用しても良いことになっており、インターンシップでの学びや取り組みがさらに大切になってきています。キャリア支援室では、インターンシップ参加学生向けのセミナーの案内なども積極的に行なっています。

米子高専のキャリア支援

米子高専のキャリア支援は、1 年生の地元企業見学、2 年生の地域学（米子高専振興協力会企業見学）、3 年生の工場見学旅行（県外企業見学）、4 年生以上でのインターンシップ（就業体験）や進路研究セミナーの開催など、学年進行に応じて自分の生き方を設計する力を身につけるための体制がとられています。

キャリア支援体制

専攻科 2 年	進路指導	資格取得支援
専攻科 1 年	インターンシップ（10日間）	
	共同研究等（特別研究指導）	
本科 5 年	進路指導、共同研究等（卒研）、講演会など	
本科 4 年	校外実習（インターンシップ 5 日間）	
	進路研究セミナー（企業・大学合同説明会）など	
本科 3 年	工場見学旅行（県外）など	
本科 2 年	校外研修旅行（地域学：山陰の企業見学）など	
本科 1 年	地元企業見学など	

本科求人倍率の推移

求人倍率 23 倍と好調を維持しています。

年度	高校卒（鳥取県下）	大学卒（全国平均）	米子高専卒（5 年生課程）
2021 年度	2.09	1.50	24.0
2022 年度	2.95	1.58	22.8
2023 年度	2.97	1.71	23.0

進学・就職の割合（5 年生）

2023 年度の大学・専攻科進学率は 31.6% でした。

年度	進学	就職	その他
2021 年度	64.6%	2.1%	31.9%
2022 年度	69.6%	1.1%	29.3%
2023 年度	66.3%	2%	31.6%

地域創生テクノセンター

地域創生テクノセンター長 玉井 孝幸

令和 6 年度より、テクノセンターは、「地域創生テクノセンター」と改称しました。これまでの「地域共同テクノセンター」と「医工連携推進センター」を統合し、工学の分野にとどまらない複合した分野を対象とし、地域の団体、企業と共に産学官の交流や連携活動を通じ、教育・研究活動及び地域貢献の活性化に務めています。

また、200 社を超える振興協力会の会員企業により学生に向けて、全国大会への補助、「企業ガイドブック」の配布、2 年生の科目である「地域学」で企業見学をさせていただくなど、大きな協力を頂いています。

1 年特別行事（企業見学・遠足）

企業見学・遠足を終えて

1 年学年主任 教養教育部門 大庭 経 示

1 年生の特別行事は、クラスごとに午前中は地元企業の見学、午後は遠足という日程で行われました。見学先の企業はいずれもその分野で国内外において大きな役割を担っている企業ばかりで、そのことに驚いた学生も多かったようです。ご多忙中にもかかわらず丁寧に対応してくださった各企業の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

午後の遠足では、長時間リラックスして級友と過ごすことができ、高専祭を通してまとまったクラスの仲がさらに深まったようでした。

特活委員より 遠足の感想

1-1 田 中 楓 鹿・中 田 真 心

初めての遠足でみんながとても楽しめていたので良かったです。企業見学の時もしっかり話が聞けていたし、先生の指示も聞いて動いていたので時間いっぱいみんなが楽しめたと思います。けがをしてしまった人がいたのは残念でしたが、何よりみんなが全てのことに楽しめていたので良かったです。



後藤総合車両所で企業見学

高専生活最初の遠足

1-2 吉 岡 来 飛

1 年 2 組は TVC 株式会社と蒜山高原センターに行きました。TVC 株式会社での見学では、自動車の部品などについて、非常に詳しく説明をしてくださり、勉強になりました。それ以外のお話からでも、人に寄り添った素晴らしい会社だと感じました。その後の蒜山高原センターでは残念ながら雨となってしまいましたが、アトラクションを楽しんだり、お土産を買ったりなど、楽しく過ごせました。



TVC 株式会社にて

鳥取市からの北条オートキャンプ場

1-3 大 西 啓 太

今回、1 年 3 組は懸樋工務店へ企業見学しに行きました。建設途中の学校や、本社の美しいトイレなどを見ることができ、胸の鼓動が止まりませんでした。建築の工夫や芸術性に触れて、学びになる貴重な体験が出来ました。また、午後は北条オートキャンプ場でバーベキューをしました。バーベキューに慣れていない人が多い中での助け合いや、美味しいお肉によって、クラスの仲が一層深まりました。



レイニーブルー

工場見学を終えて

1-4 若 林 夏 樹

午前中の工場見学ではニッポン高度紙の工場を見学させていただきました。私はそもそも高度紙をよく知らなかったのですがコンデンサや電池など私たちの身近に使われているのだと知り、よく知らないだけで生活に根付いているものを生産して下さっている企業はたくさんあるのだと学びました。



短い間で再開したジェットコースターで！

企業見学・遠足をおえて

1-5 松 尾 迅 将

私たちは鳥取県金属熱処理協業組合（とりねつ）を見学しました。見学では皆が真剣に職員の話を聞き、普段見られないような機械を見せていただきとても良い経験になりました。その後に行った蒜山高原センターでは昼食にジンギスカンをみんなで食べました。雨で動いてないアトラクションもありましたが、雨が止んでいる間に急いでジェットコースターに乗るなど皆とても楽しんでいました。



とりねつの見学

2年特別行事 (地域学・校外研修旅行)

地域学の校外研修旅行を振り返って

2 年学年主任 教養教育部門 竹内 彰 継

2 年生は、11 月 14、15 日に「地域学」の校外研修旅行を行いました。「地域学」とは従来のオープンファクトリーを授業化したもので、地域や地元企業への理解を深めるために総合工学科で新しく導入された科目です。見学させていただいた企業では懇切丁寧にご対応いただき、学生達は将来に向けて非常に良い経験ができました。ご多忙中、研修旅行にご協力くださいました企業の皆様方にご場をお借りしてお礼申し上げます。

研修旅行を終えて

2-1 (A) 井上 真 緒

私たちのクラスではリコーIT ソリューションズ株式会社、株式会社 LIMNO、美保テクノスの 3 社を見学させていただきました。それぞれの業界の特徴や社風に触れることができ、これからの進路選択の幅が広がったように思います。特に印象に残った美保テクノスの見学では、普段は見ることのできない建物の内部について体験することができ、建築にさらに興味を持つ機会となりました。



リコーIT ソリューションズにて

学びを深めた研修旅行

2-2 (M) 岩井 眞 子

私達 2 組は、中国電力ネットワーク日野変電所、アイ・コミュニケーション㈱、千代むすび酒造㈱へ研修に行きました。主に電気電子、情報、化学の分野が活かせそうでしたが、部品製造や建物などで機械や建築の分野も重要だと感じました。この様に研修先で活かせる分野を考える機会が得られ、有意義な研修旅行になったと思います。



GREENableHIRUZEN にて



千代むすび酒造㈱での酒蔵見学

研修旅行 ～絆と学び～

2-3 (E) 金 本 風舞哉

今回の研修旅行を通して、企業とはどういうものか、将来について考えるきっかけになりました。見学しているとあっという間に時間が過ぎ、どこの企業も強く印象に残っています。

私は、特に(株)王子製紙の中の機械が印象に残っています。また、ホテル内やレクリエーションなどクラスメイトとの関わりで仲もよりいっそう深まりました。この貴重な体験をこれからの学校生活やクラスでの様々な場面で役立てていけたらと思います。



ドローン空撮見学
(株式会社コナゴ技研コンサルタント)

研修旅行を振り返って

2-4 (J) 加藤 結 葉

この研修旅行を通して、「働く」ということについてより深く考えることができたと思います。実際に工場の中やオフィスの中を見学させていただいて、将来の自分の働く姿を現実的に捉え、想像することができました。そして、自分がどんな仕事をしたいかを考える良い機会になりました。また、レクリエーションの時間では話したことがなかった人とも関わることができたので良かったです。



山陰酸素工業株式会社にて

研修旅行で得た学び

2-5 (M) 鐘 築 昇太郎

2 年 5 組は 1 日目に山陰ビデオシステム、エースバック、2 日目に米子ガスの計 3 社にお伺いし、施設等を見学させていただきました。その中で、各企業様が手掛けるシステム・製品が様々な産業を支え、全ての社員の皆様が責任感とやりがいを持って仕事に取り組まれている様子を体感することができました。これらの企業訪問を通じて、学校では得られない貴重な経験をし、私達の将来について考えるきっかけとなりました。



米子ガスにて

3年特別行事（工場見学旅行）

特別行事（工場見学旅行を終えて）

3年学年主任 機械システム部門 権田 岳

本科3年生は、11月14～15日の特別行事で県外企業の「工場見学旅行」を行ないました。昨年度に引き続き、主に関西方面の多くの企業に受け入れていただき、今年度も充実した工場見学旅行を実施することができました。コースごとに特色のある様々な企業見学は、学生にとって将来を考えるうえでの貴重な経験となりました。ご多忙のところ、ご協力くださいました企業の皆様、保護者の皆様、関係者の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

関西への工場見学旅行

3M 吉岡 蒼良

私たち3Mは1日目に三菱重工㈱高砂工場、2日目に大阪シーリング印刷㈱大阪工場の見学に行き、自由時間には大阪の街を散策しました。三菱重工㈱では、私たちに欠かせない電気を発電するガスタービンの製造を見学し、大阪シーリング印刷㈱では、商品のシールなどの製造する工程や機械を見学しました。生活する中で自分の成果が目に見える仕事と見えない仕事を実際に見て、自分が将来どのような場所で、どのような仕事に就きたいのかを考えるための参考になる研修になりました。



3M 記念写真

唯一無二の思い出

3E 高見 航生

私たちの目的地は大阪でした。聳え立つ高層ビル群や、鳥取には無い都市高速道路を目にする度に、およそ4時間にわたったバス移動の疲労はどこかへ飛んで行きました。日本を代表する大企業パナソニック社を見学したこと、大阪・関西万博の会場、夢洲を訪れたこと、国内有数の大型テーマパークに足を運んだこと。今回の工場見学旅行を通じて、今後の人生で忘れることはできない、唯一無二の思い出をみんなで創ることができました。



パナソニック株式会社に

工場見学を終えて

3J 池口 寛大

今回の工場見学では、1日目に川崎重工業西神戸工場様で企業紹介や生産品の実演を見学し、2日目にはMHIソリューションテクノロジー様で製造や実験過程を見学しました。両社とも大規模な機械を扱う企業様で、普段は見るできない壮大な機械設備に圧倒されました。

初めて情報システムコースの学生として、ソフトウェアだけでなくハードウェアに触れることで、新たな視点を得ることができました。



集合写真

工場見学旅行

3C 比留田 重

今回、私たちCコースはカネカ高砂工場を見学させていただきました。カネカは有機化合物を主に取り扱っており、食品や医薬品など様々な事業に取り組まれています。授業で習っている単語などがお話を伺っている際にも出てきて現在行っている授業が将来の役に立つことを再認識し、より勉学に励もうと考えられるいい機会となりました。自由散策では大阪を観光することで友人との仲をより深めることができました。



カネカ高砂工業所での集合写真

学びと仲を深めた研修旅行

3A 柴崎 琉輝

3Aは大林組のマンション建設現場に行きました。初めて実際の現場を見て驚きつつ、それと同時に現場でコンクリートのことや構造のことについて少し理解できて嬉しかったです。わからないことをたくさん質問し、そこで様々な疑問が解消され、良い経験ができたと感じました。この研修旅行で1番思い出に残ることはホテルのガーデンエリアでだるまさんがころんだをしたことです。子どもの頃を思い出してとても楽しかったです。

建設現場を実際に見て学び、クラスメイトとも仲を深めた研修旅行は思い出にも残り、とても良い経験になって良かったです。



兵庫県立美術館にて

- 彦名通信 No. 215 令和 7 年 3 月発行（「米子高専生のための進路研究セミナー」開催報告、米子市ふるさと納税を活用した米子高専への支援について(お願い)）

「米子高専生のための進路研究セミナー」開催報告

キャリア支援室長 大塚 宏 一

令和 6 年 12 月 21 日（土）に鳥取県立武道館にて「米子高専生のための進路研究セミナー」を開催しました。今年度は企業 220 社、大学及び大学院 13 プース、地元自治体等 4 団体の合計 237 プースでの実施となり、本校から本科 3・4 年生、専攻科 1 年生及び保護者を対象に約 400 名が参加しました。

本セミナーは企業や大学の担当者から会社や業界及び大学・大学院等について紹介を受ける貴重な機会であり、就職活動やインターンシップ等への理解を深めるキャリア教育の場と位置付けて実施しています。出展企業については県外企業だけでなく、学生の地元定着を図るべく、米子高専を支援する地元企業等の団体である「米子高専振興協力会」へも呼び掛けを行い、75 社に参加いただきました。また、地元企業への理解促進と将来的な地元への人材確保に繋げるべく、地元就職応援コーナーとして鳥取県、倉吉市、安来市にもブースを設けていただきました。

今後もキャリア支援室では学生一人ひとりが自分のキャリアについて自律的に考え、選択していけるようキャリア教育の一環として本セミナーの開催を継続して参ります。



民間企業や地元自治体ブースでの説明の様子

米子市ふるさと納税を活用した米子高専への支援について（お願い）

令和 6 年 12 月 4 日より、米子市ふるさと納税メニューに新事業「がいなよなご応援団高等教育機関連携事業（米子工業高等専門学校コース）」が設定され、ふるさと納税による寄附の募集を開始いたしました。

3 月までの 3 ヶ月間で、多くのおみなさまにご協力をいただき、感謝申し上げます。

本制度は、本校と米子市が、ふるさと納税を活用して地域の活性化及び魅力の向上に寄与する取組の推進に向けて連携及び協力を行うものです。

本制度により申し込みいただいた「ふるさと納税」を活用し、米子高専の教育研究・地域活動をより一層推進して参ります。

つきましては、ふるさと納税をご検討中の方は、ぜひとも「米子市ふるさと納税＞選べる使い道＞がいなよなご応援団高等教育機関連携事業（米子工業高等専門学校コース）」を選択いただき、本校へのご支援をお願いいたします。

なお、通常のふるさと納税と同様に、返礼品は届きます。所得税の還付や住民税の控除も同様です。

ただし、現時点では米子市に住民票のある方は対象外となります。

また、米子市以外へお住まいのご家族・ご親戚・ご友人等へも広報いただけますと幸いです。

詳細は、以下の米子市ホームページまたは米子高専ホームページからご確認ください。

ぜひ皆様からの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

◎ がいなよなご応援団高等教育機関連携事業（米子工業高等専門学校コース）



「がいなよなご応援基金」に積み立て、米子工業高等専門学校との連携事業のために活用します。

米子市ふるさと納税について
(米子市ホームページ)



寄付の手続き方法
(米子高専ホームページ)



2. 新聞・雑誌等掲載一覧

一般紙

年	月	日	曜日	記事タイトル	新聞紙名	掲載ページ
6	4	18	木	米子高専創立 60 周年 人材育成通じ地域に貢献 「新たな価値」創出へ進化続ける	日本海新聞	31・32
6	4	19	金	地域産業の発展支え 60 年 米子高専創立記念式典	日本海新聞	
6	5	28	火	地元就職率増へ鳥取県が協定 5 教育機関と 26 年度 37.3%目標	山陰中央新報	32
6	5	28	火	県内就職率に目標数値 県と県内 5 校 若者定着へ協定	日本海新聞	
6	6	1	土	米子高専科学部 優秀賞 世界最大級の学生科学技術コンテスト 開発分光器を発表	日本海新聞	34
6	6	25	火	米子高専に寄付金贈呈 米子ガスグループ	日本海新聞	32
6	6	26	水	中海の水質保全 計画目標値未達 米子で会議報告	日本海新聞	
6	6	28	金	高校生、熱いステージ アマバンド中国大会 雨の中、個性豊かな演奏	日本海新聞	
6	6	28	金	4 大生 8 割が県外就職 2026 年度目途に 4 大、高専など定着目標値設定 鳥取県	山陰経済新聞	
6	7	5	金	個性豊かな手作りベンチ 米子高専生、花回廊へ寄贈	日本海新聞	38
6	7	6	土	国際科学コン入賞を報告 天体観測用分光器開発 米子高専生が市長表敬	日本海新聞	
6	7	11	木	安価で高性能 天体分光器開発 米子高専科学部国際コン優秀賞 米で発表 アイデア評価	山陰中央新報	
6	7	12	金	国際科学大会で米子高専生入賞 知事に成果報告	朝日新聞	
6	7	28	日	大学等 2025 年春卒業採用計画 生活・サービス人手確保に積極的 IT 業界、院生確保も	山陰経済新聞	
6	8	14	水	星に魅せられ 仲間と天体観測用分光器製作 将来は宇宙開発の仕事を	日本海新聞	
6	8	21	水	県産業技術センター 楠本さん(米子高専卒) 日本 IE 文献賞受賞 DX 化取り組む企業支援	日本海新聞	
6	8	28	水	米子高専 求人が殺到本科で 30 倍 DX 深化で人手不足	山陰経済新聞	
6	9	7	土	望遠鏡用の観測部品 米子高専生が製作 さびアストロパークに寄贈	日本海新聞	
6	9	11	水	広がれ分光観測 願いを再び形に 天体研究 米子高専生が安価で装置開発 アストロパークなどに寄贈 「星取県製」役立てて	朝日新聞	
6	9	12	木	全国高専卓球 米子高専 3 連覇 女子単 常松初 V で 2 冠	日本海新聞	35
6	9	15	日	米子高専放送部が快進撃 全国規模映画コンクール 最優秀作品賞や演技賞 強い探求心で完成度高く	山陰中央新報	35
6	9	18	水	セーリング全日本選手権 県勢 4 種目を制す	日本海新聞	
6	9	18	水	分光器補助機器を寄贈 米子高専、市児童文化センターに	日本海新聞	38
6	9	26	木	女子団体 V3 市長に報告 全国大会、米子高専卓球部	日本海新聞	
6	10	13	日	御坊市文化賞に高専の山口利幸氏	紀州新聞	
6	11	7	木	PFF アワード・ファン賞 米子高専生の映画受賞 一般審査員「何回見返しても飽きない」	日本海新聞	35
6	11	8	金	高専連合会がデザコンin阿南大会、5 部門で熱戦 構造部門で米子高専 7V	日刊建設工業新聞	
6	11	14	木	花とイルミ 幻想的共演 花回廊あすから開催	山陰中央新報	
6	11	14	木	100 万球 光のファンタジー 花回廊、あすから	日本海新聞	38
6	11	17	日	笑顔キラリ 心弾ませ 花回廊、点灯始まる	読売新聞	
6	11	18	月	シンフォニアテクノロジー 荒木信洋さん(米子高専卒) 多彩な事業内容魅力	日刊工業新聞	
6	11	18	月	王子製紙 境高史さん(米子高専卒) プラント愛を育んで	日刊工業新聞	
6	11	19	火	科学に情熱ー小中学生に育成塾	日刊工業新聞	
6	11	26	火	住友電気工業 實松義仁さん(米子高専卒) 建物のライフサイクルを支える	日本経済新聞	
6	11	26	火	米子高専 天体観測用分光器を安価に	日本経済新聞	
6	12	5	木	鳥大医学部や米子高専支援 米子市ふるさと納税に新設	日本海新聞	33
6	12	10	木	高専卒採用両県企業苦戦 就職率 1〜2 割学生と接する機会を	山陰中央新報	
6	12	21	土	小中学生 23 人が講義の成果披露 米子高専「ジュニアドクター育成塾」	日本海新聞	33
6	12	28	土	「進路研究セミナー」開催 26 年春卒業生対象に 米子高専	山陰経済新聞	
7	1	6	月	全国高専デザインコンペ 米子高専 構造部門 7 連覇	日本海新聞	36
7	1	9	木	米子高専放送部 3 連覇 高校生映画コンクール 脚本、カメラワーク高評価	山陰中央新報	36
7	1	13	月	高校生のためのエイガワールドカップ 米子高専 最優秀作品賞 3 連覇	日本海新聞	
7	2	7	金	「発酵を科学する」アイデアコン 米子高専生が優秀賞 アレルギー配慮、5 品考案	日本海新聞	36
7	2	16	日	小中学生 18 人が研究成果を披露 米子高専の育成塾	日本海新聞	33

年	月	日	曜日	記事タイトル	新聞紙名	掲載ページ
7	2			光を生ける～Tech×華道による新たな形の日本文化体験～	読売万博高専新聞	
7	2	28	金	米子高専 地元就職に注力 ふるさと納税と連携	山陰経済新聞	
7	3	1	土	米子高専放送部エイガワールドカップで最優秀 復讐の道貫く「クラッシュ」 撮影と編集も評価高く	朝日新聞	
7	3	1	土	歴史的資源を生かして 空き町家活用探る 観光まちづくりで講演会	日本海新聞	
7	3	1	土	米子高専チーム最優秀賞 第3回高専 GCON 競技力向上アプリ開発 ドローン、AI 技術を活用	日本海新聞	37
7	3	2	日	「歩いて楽しい」米子 高校生がアイデア提案	山陰中央新報	
7	3	2	日	歩いて楽しいまち若者目線で実践 米子市内生徒ら活動報告	日本海新聞	39
7	3	8	土	高専 GCON 米子高専チームが文部科学大臣賞 ドローン×AI 動作解析によるスポーツ競技力向上アプリの開発	日本経済新聞	
7	3	14	金	米子の「町家」空き家化進む 米子高専専攻科・山根さん調査 町づくりへ解決策提言	山陰中央新報	39
7	3	18	火	米子高専チーム最優秀 全国の高専生対象コンテスト 動作解析アプリ開発	山陰中央新報	
7	3	19	水	最優秀賞・文科大臣賞 「機械設計を例とするモノづくり機会の早期獲得に関する提案」	日刊工業新聞	
7	3	20	木	文科大臣賞 森さん(米子高専)表彰 理工系学生科学技術論文コンクール	日刊工業新聞	
7	3	20	木	森さん 米子高専 最優秀賞輝く 理工系学生科学技術論文コン 「ものづくり」の未来提起	日本海新聞	37
7	3	26	水	日本海新聞ふるさと大賞 2024 表彰式 米子市 4 団体と 3 人表彰	日本海新聞	

文教速報・文教ニュース

年	月	日	曜日	記事タイトル	新聞紙名	掲載ページ
6	11	18	月	米国人環境科学者招き 米子高専で英語使用授業	文教速報	
6	5	6・13	月	とらのもん往来 山口利幸米子高専校長	文教ニュース	
6	6	10	月	米子高専 ISEF で優秀賞 4 等受賞	文教ニュース	
6	6	12	水	リジェネロン国際学生科技フェアで米子高専科学部が優秀賞 4 等を受賞	文教速報	
6	8	9	金	米子ガス G から寄附金贈呈 グローバル人材育成へ(米子高専)	文教速報	
6	8	12	月	米子高専 米子ガスグループから寄附金	文教ニュース	
6	8	26	月	専攻科生の博士課程前期推薦入試で協定 米子高専が広島大先進理工系科学研究科と	文教速報	
6	9	2	月	広島大学大学院と米子高専、人材育成で連携協定	文教ニュース	
6	11	1	金	米子高専ヨット部学生が国スポで 6 位入賞	文教速報	
6	11	4	月	米子高専ヨット部学生が国民スポーツ大会で 6 位入賞	文教ニュース	
6	11	6	金	高専体育大会で優勝 女子卓球部が市長を表敬(米子高専)	文教速報	
6	11	13	水	米子高専、ロボコン全国大会への出場決める	文教速報	
6	11	18	月	アメリカ人講師を招き 米子高専、英語使用授業	文教ニュース	
6	11	18	月	女子卓球部、米子市長を表敬	文教ニュース	
6	11	25	月	米子高専 山口校長、御坊市文化賞受賞	文教ニュース	
6	11	25	月	米子高専校長に御坊市文化賞	文教速報	
6	12	2	月	第 21 回全国高専デザコン メインテーマは「繋」、文部科学大臣賞にサレジオ高専	文教ニュース	
6	12	13	金	SDGs 私募債活用し 米子高専に企業から寄付物品贈呈	文教速報	
6	12	16	月	八雲ソフトウェア・山陰合同銀行から 米子高専、寄付物品贈呈	文教ニュース	
6	12	18	水	名誉教授の遺族が米子高専に寄附	文教速報	
6	12	23	月	名誉教授の遺族から寄附受け 米子高専、寄附金贈呈式举行	文教ニュース	
6	12	23	月	米子高専が市と連携協定を締結 ふるさと納税活用した地域活性化	文教速報	
7	1	6・13	月	ふるさと納税を活用した地域活性化 米子高専、市と連携協定締結	文教ニュース	
7	1	24	金	パハン大准教授招き 米子高専で英語使用授業 留学生・OB 交流会も実施	文教速報	
7	1	27	月	マレーシア・パハン大学准教授により 米子高専、英語使用授業実施	文教ニュース	
7	1	31	金	高専 GCON2024 で受賞 米子高専専攻科生が文科大臣賞	文教速報	

年	月	日	曜日	記事タイトル	新聞紙名	掲載ページ
7	2	3	月	米子高専、学生対象に進路研究セミナー	文教速報	
7	2	3	月	学生のための進路研究セミナー	文教ニュース	
7	2	10	月	高専 GCON 本選で 米子高専、文部科学大臣賞受賞	文教ニュース	
7	3	5	水	米子高専生が JSEC で入賞 日本代表に選出、米国での国際フェアに	文教速報	
7	3	28	金	米子高専教員と学生に県警が感謝状 サイバー防災ボラ活動などの功労に	文教速報	34

雑誌等その他掲載記事

掲載誌名	記事タイトル等
とっとりプラットフォーム 5+α パンフレット	鳥取で学ぼう！鳥取県内の高等教育機関ガイド
とっとり県政だより 令和7年2月号	いよいよ今年は万博開催の年！プログラミング技術を生かし、会場を光で彩る

3. 新聞記事抜粋

創立 60 周年

日本海新聞 令和6年4月18日（木）8・9面



独立行政法人 国立高等専門学校機構
米子工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Yonago College

米子高専

人財育成通じ地域に貢献

沿革

1964(昭和39)年	4月1日	米子工業高等専門学校(機械工学科、電気工学科、工業化学科)発足
	4月18日	開校式・第1回入学式
1969(昭和44)年	4月1日	建築学科新設
1987(昭和62)年	4月1日	電子制御工学科新設
1994(平成6)年	4月1日	工業化学科を物質工学科に改組
2003(平成15)年	3月28日	校舎全面改修
2004(平成16)年	4月1日	独立行政法人国立高等専門学校機構米子工業高等専門学校発足 専攻科(生産システム工学専攻、物質工学専攻、建築学専攻)設置 電気工学科を電気情報工学科に名称変更
2013(平成25)年	4月1日	一般科目を教養教育科に名称変更
2016(平成28)年	5月21日	リベラルアーツセンター開所式
2017(平成29)年	9月3日	医工連携研究センター開所式
2021(令和3)年	4月1日	総合工学科(1学科5コース制)に学科再編

教育研究

全国9高専が共同で行う超小型衛星開発プロジェクトの実施代表校として、同校教員と研究室所属学生が「KOSEN2R」の開発に携わり、衛星の打ち上げに成功し、地盤変動の観測データを用いて、防災や環境研究に役立てることが期待される。試作機は、市販の金属製メジャーをアンテナに使用し、曲げ伸ばしが自在なよう工夫。2025年度に打ち上げロケットへの搭載を予定し、試験を重ねて性能を高めている。



超小型衛星開発のプログラム開発の様子

部活動

放送部は昨年、「N日K杯」全国高校放送コンテストで、全日本大会(ノコン)の創作テレビドラマ部門で高専鳥取優勝。初となる全国大会出場。取組に力を入れた部長、顧問の両名が、全日本大会で、N日K会長賞に輝き、他2部門でも制作奨励賞の快挙を達成。11年連続出場の「高校生のためのeiga wordcup」では、2年連続で最優秀賞を受賞し、「全米高校映画祭」での上映が実現した。



放送部の活動風景

コンテスト

「その昔、高専」第4回全国高等専門学校コンテストで、米子高専が、デザイン部門で、全国大会出場を目標として、技術力とアイデアを駆使したロボット製作に挑戦。2019、2020年に全国大会出場。中国地区大会では、これまで3回の優勝を誇る。



昨年のデザイン全国大会の様子

特色ある活動 全国を舞台に活躍

米子高専は、日ごろから培ってきた知識や技術力を発揮し、全国的なコンテストで数々の功績を残しており、また部活動や教育研究分野でも幅広く活躍している。

土木系、建築系を学ぶ高専生が生活環境の多様なデザインを競う「全国高等専門学校デザインコンペティション」で、米子高専が、建築デザインコースの研究活動の一環として毎年、4年生を中心に参加し、先輩が率いてきた伝統と技術を受け継ぎながら、新たなテーマで試行錯誤を重ね、精度の高い作品を追求する。

「アイデア対決・全国高等専門学校ロボコン」では、ロボコン同好会が全国大会出場を目標として、技術力とアイデアを駆使したロボット製作に挑戦。2019、2020年に全国大会出場。中国地区大会では、これまで3回の優勝を誇る。

「その昔、高専」第4回全国高等専門学校コンテストで、米子高専が、デザイン部門で、全国大会出場を目標として、技術力とアイデアを駆使したロボット製作に挑戦。2019、2020年に全国大会出場。中国地区大会では、これまで3回の優勝を誇る。

米子市

小中学生23人が
講義の成果披露米子高専ジュニア
ドクター育成塾

未来の科学分野を担う人材を育成する「ジュニアドクター育成塾」の成果発表会が14日、米子市彦名町の米子高専であった。小中学生23人が数学やプログラミング、高分子合成などをテーマに半年間の講義の成果を発表した。



研究成果を発表する受講生
2年から参加し、3年目の本年度は鳥取県と島根県東部の小学5年〜中学3年生38人が工学や情報などの講座を受講し、その中の一つを取り上げて実験をした。福米西小5年の石川呼八さん(11)は三角形の合同に着目し、どういった条件で三角形同士が合同と言えるのかをまとめた。福米中2年の磯田泰生さん(14)は、水性ペンのインクと植物の葉の色素を水や薬品を使って分離させた結果を伝えた。

福生西小6年の田中彩咲さん(12)は「光と映像の仕組みを学ぼう」と題した研究を発表。異なる色の紙を撮影し、そのデータをパソコンに取り込んでプログラムで解析したといい、「色が赤、緑、青の値で表せることが分かった」と総括した。(井川広志)

◇米子高専は25年度ジュニアドクター育成塾受講生の募集を前に、来年1月と3月の2回体験会を開く。問い合わせは電話0859(24)5007。

鳥大医学部や
米子高専支援

米子市ふるさと納税に新設

米子市は4日、ふるさと納税のメニューに、鳥取大医学部(米子市西町)と同大医学部付属病院(同)、



協定書に調印した(左から)中島学長伊木隆司米子市長、山口校長、米子市役所

米子高専(同市彦名町)を支援するコースを新たに設けた。寄付金は教育環境の充実や人材の地元定着を促す取り組みに生かす方針。寄付金の使い方を指定する区分に、新たに「高等教育機関連携事業」を盛り込む。市は寄付金を「がいのな」応援基金として積み立て、それぞれの機関との連携事業に活用する。

返礼品は既存のものから選ぶ。将来的に校舎や病院の見学、教員による講義など特色あるものから選ぶ。返礼品は既存のものから選ぶ。将来的に校舎や病院の見学、教員による講義など特色あるものから選ぶ。

を生かした返礼品を企画する可能性がある。市と鳥取大、米子高専は同日、ふるさと納税を活用した地域活性化について、連携協力の協定書を結んだ。鳥取大の中島光学長は「学生の地元就職や医師養成、医療を通じた地域活性化に今まで以上に尽くす」、米子高専の山口利幸校長は「応援してもらえるのは非常にありがたい。地域の活性化や魅力向上に寄与していく」と述べた。同日からインターネットサイトで受付を開始した。(足立篤史)

小中学生18人が
研究成果を披露

米子高専の育成塾

未来の科学分野を担う人材を育成する「ジュニアドクター育成塾」の成果発表会が15日、米子市文化ホールであった。米子高専で指導を受けた鳥取、島根両県の小中学生18人が、ごみを除去するロボットの開発や形状の違いによる強度の変化など、それぞれの研究成果を披露した。(井川広志)



研究成果を発表する育成塾の受講生。15日、米子市文化ホール

果を披露した。育成塾は科学技術振興機構が採択した各地の大学と高専が実施し、米子高専は2022年度から参加。発表した18人は本年度、研究内容を掘り下げる発展的な育成過程を受講してきた。後藤ヶ丘中2年の小川伶さん(14)は、砂浜に落ちているプラスチック片を回収するロボットの開発を目指した。砂とプラスチックを分別するため、比重の違いに着目して水に入れる方法と、粒子の大きさの違いを利用して網目状のふるいを使う方法を実験。「水を使う手法はロボットへの搭載が難しく、ふるいを使う手法に絞って研究を続けた」と報告した。

福生東小6年の三井杏花さん(12)は3Dプリンターでさまざまな形状の樹脂片を作製し、加えた力に対する強度の変化を測定。アルファベットのXの形の強度が高いとした上で「力を左右と上下に分散することで荷重に耐えられる」と考察を披露した。(井川広志)

米子高専教員と学生に県警が感謝状
サイバー防災ボラ活動などの功労に

米子高専では、同校教員と学生に鳥取県警察本部から感謝状などが3月11日に贈呈された。写真真。鳥取県警察サイバー防犯ボランティアでの活動を行っている同校の川戸研究室に県警察本部長から感謝状と記念品が贈られた。

また、総合工学科情報システム部門の川戸聡也准教授と同校専攻科生産システム工学専攻の守山 凜さんには、県警本部生活安全部サイバー防犯対策課長から感謝状が授与された。

米子高専では2020、22年度から有志の教員と学生がボランティアに登録しており、サイバー犯罪被害防止のための講演や後進の育成といったサイバー空間の安全安心を確保する活動に継続して取り組んでいる。このボランティアに対する県警本部からの感謝状の贈呈は今回が初で、これまでの功労が認められた。

労が認められた。

2024年度は教員1名と学生11名がボランティアに登録して、講座の企画実施や啓発イベントの補助などで活動した。米子高専では、高度で専門的な技術や知識を有して地域に根差しているという同高専の特色を活かして、サイバー防犯に関する活動で今後も地域社会に貢献するとしてしている。



学生の活躍

日本海新聞 令和6年6月1日(土) 25面

米子高専科学部 優秀賞

世界最大級の学生
科学技術コンテスト
開発分光器を発表

世界最大級の高校生科学技術コンテスト「リジェニア2024」に出場した米子市産た。部員らは開発した天体観測用分光器について発表

し、安価な製作を可能にした工夫を説明した。

コンテストは5月11・17日に米国カリフォルニア州ロサンゼルスで開催され、87の国と地域を代表して1699人が出場。日本代表

は計22人で、同部から3人が出場した。英語でポスター発表を行い、各分野の専門家らの審査を受けた。

分光器は光を波長ごとに分けて天体の状態を調べる「分光観測」に使用するもので、高価なため国内の公

開天文台の多くは保有して
いないが、同部は安価な製
作を実現。発表では実物を
見せつつ構造の工夫を図解

し、光を波長ごとに分ける「回折格子」の角度を切り

替えることで、既製品では2台使用するカメラを1台にしたなどと解説した。

分光観測した結果を示して
性能の高さも強調し、今後

は補正処理を容易にする

加してさらに性能を向上
する。同型の分子構造

が世界中に広まれば、オゾ

研究にも役立つと力を込め

問にも答え、各国の高校生と交流した。

出場した部員らは今後、

予定。リーダーの吉田浩瑛

し、それが環境問題にもつ

部分も含め評価されたのでは。論理的に物事を云々

り、英語で反応を見て話し

広いと感じた。今後は分光

「広めたい」と話した。

女子団地で3連覇を飾った米子高専の選手ら＝北海道釧路市のウインドヒル
くしろスーパーアリーナ



<p>至五回戦 香子vs組 勝した。</p> <p>記者は暴分</p>	<p>個人入アルスでも準備</p> <p>石田重樹と組んだ女子</p> <p>合戦制した。快勝を 勝ち、決勝と戦ひ</p>	<p>松は決勝まで進出に 成功した。</p> <p>かた、女子個人で常 なつた。</p> <p>いすれもストレート勝 つて、他を寄せなけ ばならぬ。</p>	<p>予選で試合失敗の奇 は予定通り、決勝の香 子は、</p> <p>女子団体で米・高専 が優勝した。</p>	<p>世間は、冠を達成し た。</p> <p>で初勝を飾つた。松 松は、</p>	<p>と9月1日の間、北 海道札幌市のワンド で、</p> <p>ヒールを、バーパ で行われ、鳥取</p>	<p>専修大入は、8月31日 の第5回国体で、</p> <p>専修大は、</p>
<p>秋田 西原</p>	<p>香子 石田</p>	<p>香子 香子</p>	<p>香子 香子</p>	<p>香子 香子</p>	<p>香子 香子</p>	<p>香子 香子</p>


全国高专卓球

米子高専3連覇

女子単
常松初Vで2冠

[illegible]

11月7日(木) 19時



見返しても

たは映画「ア
か」映画館で
品に贈られ、
きなかつた」
れたこいつ。
木から約2カ
月でもある
経消えてす
の「陽影」さ
貴役の業狩
が互いに

米子高専放送部が快進撃



これまでに受賞した映画賞のトロフィーや表彰状を手にする
放送部員たち＝米子市彦名町、米子工業高等学校

映像制作に取り組む米子工業高等専門学校（米子市を町）放送部が、全国規模のコンクールで高い評価を得ている。昨年12月にあった高校生版の放送コンクールの2年連続で最優秀作品賞を受賞したほか、9月に上映会がある自主制作映画祭をめぐる映画祭では、社会人を含め全国から寄せられた作品692本中19本のファイナリストに残っている。理系の方針力などを生かした映像世界が人々を引きつける。

ンクール



の日常音楽性は一高屋建瓴として、
 完成度の高さに結びついていると思ふ」と語る。自然現象などを分析する理系の視点や旺盛な好奇心が、深

最優秀作品賞や演技賞

強い探究心で完成度高く

[illegible]

の「先輩方の功績を引き継ぎ、良い作品を残したい」と力説した。

米子

同専生のの

で、今回は計690
から、2次審査を

賞

PFFアワード・ファン賞

米子高専生の映画受賞

8月(京で開かれた映画展「第1回びあフィルムフェスティバル2014」)の自主映画「米子市彦名町」PPFアワード2014で、米子高専(米子市彦名町)の放送部が製作した映画「ちあひの姿拍子」が映画フタツ賞(びあ2)スト賞を受賞した。顧問の田中晋隆氏によくと、根岡崎の高校・高専の入学は初とされる。(武居紀子)

同アワードは1年以内の製作、やジャンル、応募者の年齢などされた映画であれば作品の長さ、を問わないコンペティション。

「抱きない」

で、今回は計6回、本の応募から、2次審査で入選作品を選出。入選作は映画祭映、審査され、8作品がラブリナへの賞に輝いた。

「おあぎの愛相子」は、自ら抑えて生きる女子高生の子が、彼女の人格が作り出した想の友人・貴貴に翻弄され

35



一般審査員「何回見返しても飽きない」

が成長して、いよいよ夢を断つた。30分の作品「獲得した映画」で賞は一役番員が「映画園」見たいと感じた作品に贈られた。何回も見ては飽きたかったと満腹一致で選んだという。

作品は昨年より未だ約4分の月間で撮影。見ても多少の暑気がある。千秋が贅費の存在を消そうとする場面は、千秋の上原裕子（羽根）と「贅費」（若山）の対決シーン（18'33"）が互いに激しく思ふをぶつけ合い、見る者すら驚かされた仕掛け。

監督を務めた佐田利政（18'33"）と白岩周也（18'33"）は「入選してもすくなくこの場面にまで進んで驚いた。満場一致で選んで大当りになった」と喜びを語った。

作品は、10日前11時から宮都化博物館公開される「ひまわりフィルムフェスティバル」公開部でも上映される。

米子高専放送部3連覇

高校生映画コンクール

脚本、カメラワーク高評価

映像制作に取り組む米子工業高等専門学校（米子市彦名町）放送部が手がけた映画作品「クラッシュ」が、高校生映画コンクール「高校生のためのeiga worldcup2024」で、3年連続で最優秀作品



賞讃した。同校が保持するコンクール記録の2連覇を断つ快挙。趣向を凝らしたシナリオや巧みなカメラワークが高く評価された。

NPO法人映画甲子園が主催のコンクールは毎年12月に開催され、全国から69作品が寄せられた。

受賞クラッシュは、常に「インテリッシーな主人公の少女 奈奈が、友人にさらされた仕返しをしたことか

に現る。爽やかな声や劇中の物語、爽やかな言動から得意にしての同校に新たな分野を切り開くこと、総合学科3年の今岡工リカさん(18)がメガホンを取った。昨年9・10月に部員3人だけで撮影し、32分間の作品を見た。

に仕立てた。

同級生男子と共犯関係を築き、過激な増す衝動から反れ出せなくなる奈奈の様子や、体を張った演技、カシメ4台を使った驚きの高

りを受身で、大きな自信をなつて話した。

吾奈役の総白、孝科2年の門脇「吾さん」は初めて演者に挑戦。人前では明るく振舞いながら裏では結構く復讐の機会をうかがう一面性を持つ、主人公を熱演し「監督の演技指導に応えろ」と、受賞の報を聞いたときは最高の気分だったと振り返る。

作品は、大のホームベロジで視聴せよ。(中略)

い映像が評価された。岡岡さんは「物語の結末にも工夫した。自分が作りたい内容の作品でグランプリ



米子高専 構造部門 7連覇

昨年1月に徳島県阿南市で開かれた全国高等学校工芸デザインコンクール専門部にて、米子高専（米子市）建築デザインコースの学生チームが、同大会の部門賞で7年連続の最優秀賞を受賞した。紙で橋の構造を制作した。紙で橋の構造を制作して、パツクの数を増やるとしてその分散と軽量化を実現した。同部では、橋がけぐらしい橋に、耐えられたい、軽くて、耐えられたい、重くて、耐えられたい、といった性質を競い合った。同校のチームが制作した「要」は、増やしたパツクによって細く短くして、耐荷重を向上。上紙の柔らかさを生かし、衝撃を受け流す構造によって、衝撃の衝撃を軽減して、その衝撃の衝撃性を測る試験もクリアした。同校の別のチームは「渡」は、渡船で優秀賞を受賞。前大会で最優秀賞を受賞した先輩たちの橋を改良した。耐荷重を測る試験を繰り返して不要なパツクを除き、さらなる軽量化を目指した。

防災をテーマに地域の性を生かした新しい空間デザインを考える部門では、同校建築学科チームの一取移住訓練「鳥取に来てさーい」が企業賞を受賞した。地域の廃校や空き家を活かし、平時から県外の人にもてもらう交流することで人口減と避難先でコミュニティ形成という二つの課題解決を考えた。

学生らは昨年12月20日、米子市役所を訪れ、伊木司市長に結果を報告。建



構造デザイン部門で7連覇を果たした橋模型「要」の構造を説明する学生＝昨年12月20日、米子市役所

米子高専生が優秀賞

原さん、清水さん アレルギー配慮、5品考案

「発酵を科学する」アイデアコン



受賞を喜ぶ原さん(左)と清水さん

全国の専生を対象に発酵食品を取り入れた郷土のおかすを募った長岡技術科学大・新潟県庁の「第8回『発酵を科学する』アイデア・コンテスト」で、米子高専化学・バイオコース3年の原花楓さん18と清水優那さん18が優秀発酵食品賞を受賞した。安来市のしょうゆ店の発酵食品を使ったオムレツやスムージーなど5品がそろった「みんなのおこまぶれと」を提案し、アレキサンにも配属した点が高い評価を受けた。

同コンテストでは、朝食に欠かさないご飯に合う郷土のおかすをテーマに、各校がおかすのアイデアを科学的要素を織り交

米子高専チーム最優秀賞

第3回高専GCON

競技力向上アプリ開発



昨年12月に東京都で開かれた「第3回高専GコンテストSDGs×テクノロジーコンテスト(高専GCON)」で、米子高専の矢田ほのかさん(22)専攻科生産システム工学専攻2年と梅田優太さん(21)総合工学科2年のチームが、最優秀賞に当たる文部科学大臣賞と企業賞に輝いた。ドローンと人工知能(AI)の動作解析技術を組み合わせたスポーツ競技力向上アプリの開発に取り組み、自らの経験を基にしたテーマ設定や最新技術を活用した点などが高く評価された。

(武居紀子)

ドローン、AI技術を活用

同コンテストは、女性研究者・技術者の増加につなげようと開催され、全国の高専から女子学生を中心とした計85チームが参加。日頃の研究テーマを基に社会課題の解決に向けたアイデアを発表し、研究の独自性やビジネスの可能性といった観点から審査された。

2人の研究は、所属する同校陸上競技部に指導者がいないことや、男女の体格差を考慮したトレーニングが少ないと感じた経験がきっかけ。アプリは、走っている姿を撮影した動画をAIが解析して骨盤の動きや足を振り出す速度などを数値化。速く走るための改善点を洗い出し、一人一人に合った

最新技術を活用したスポーツ競技力向上アプリ開発の研究で最優秀賞に輝いた矢田さん(右)と梅田さん。米子市役所

最適な練習法を提案することで誰もが気軽に高いパフォーマンスを求めているところになるという。

研究では、同部員をはじめ地元チームの指導者やアスリートなどの協力を得てデータを収集。動きを正確に分析するためには、同じ角度で一定時間動画を撮る必要があるため、ドローンを使用し、空から選手を追って撮影するよう工夫することで、走っている際の骨盤の動きも把握できるようになった。

2月14日には米子市役所を訪れ、伊木隆司市長へ研究内容と受賞を報告。矢田さんは「自分の経験から始まった研究が評価されてうれしい。他のスポーツの動作解析や従業員の作業パフォーマンス評価などにも応用できるの、ゆくゆくは製品化も目指したい」、梅田さんは「アプリの機能をより高度化させ、多くの人に利用してもらえるものになりたい」と話した。

森さん 米子高専最優秀賞輝く



文部科学大臣賞を受賞した森さん(右)=19日、東京都千代田区

「ものづくり」の未来提起

理工系学生科学技術論文コン

「第25回理工系学生科学技術論文コンクール」(目録)「機械工学分野の担い手」を掲げ、中学生向けに3D CADや3Dプリンターを使ったものづくり体験講座の開催を提案している」と執筆の動機を語った。

式典で賞状と記念盾を受け取った森さんは「機械工学科の人間が、業界全体でも人手不足と言われている」と執筆の動機を語った。春からは大学院修士課程に進学予定で、「自分の作った物で誰かが喜ぶ姿を見るのが好き。将来は社会に役立つものを設計した

い」と抱負を述べた。本コンクールは理工系の大学生、大学院生、高専生が対象。今回は95編の応募があり、独創性、将来性、論理性の観点から最優秀賞、優秀賞、特別賞の計4編が選ばれた。(西山恭平)

日本海新聞 令和6年7月5日(金) 17面

個性豊かな手作りベンチ 米子高専生、花回廊へ寄贈

南部町



米子高専総合工学科建築デザインコースの4年生38

展望回廊に設置された手作りベンチ

人が、授業で製作したベンチ6台を南部町のとっとり花回廊へ寄贈した。個性豊かなデザインの手作りベンチは、大山を背に花畑が広がる「花の丘」を望む展望回廊に設置された。

ベンチは環境教育の一環として、3年次の建築デザイン基礎演習の授業で製作。毎年寄贈しており、今回で計115基となった。学生らは大山町の山林で間伐などを体験し、6〜7人のグループに分かれてデザインの考案、設計、組み立てまでを約1カ月で行った。

ベンチは2〜3人掛けで、スギの間伐材を使用。座面がピアノの鍵盤の図柄になっている。ベンチの中には、プラントを入れることができた。デザインに工夫を凝らした。

寄贈式で山口康介園長は「広大な花回廊では休む場所を求める来園者も多く、寄贈されたベンチが非常に役立っている」と感謝した。回廊は、回廊で座ることで用金に合わせた座面が変えられるベンチを作った赤路素子(18)は「花を見に来るだけでなく、ベンチを見に来るためにも花回廊に足を運んでもらいたい」と話した。

(武居紀子)

日本海新聞 令和6年9月18日(水) 21面

分光器補助機器を寄贈

米子高専、市児童文化センターに

米子市



米子高専科学部の学生が開発した波長校正ユニット「TORIHIKO」

米子高専(米子市彦名町)科学部の学生が、分光器をより効率的に使いやすくするための天体観測用分光器「波長校正ユニット」(TORIHIKO)を開発し、市児童文化センターに寄贈した。

分光器は、分光器の補正やデータの取得が容易になる。製作費は約5万円と安価で、分光器を広く利用し、同校のホームページに図面を公開する予定。

部員の代表4人が9日にセンターを訪れ、職員に使用方を伝授。電気回路を接合するはんだ付けなどを担当した2年の遠藤愛さん(16)は「TORIHIKOを使えば波長校正が簡単になる。ぜひ子どもたちに、星が放つ光の色の美しさを知ってもらいたい」と笑顔を見せた。

(黒坂友哉)

日本海新聞 令和6年11月14日(木) 1面



色鮮やかなイルミネーションに彩られた園内。13日、鳥取県南部町のとっとり花回廊(鳥取県南部町)で、冬季恒例の「フラワールミネーション」が始まるのを前に13日夜、試験点灯が行われた。8万平方メートルの展望回廊内に中国地方では最多クラスとなる約100万球の発光ダイオード(LED)が点灯。濃とした夜の園内を彩り豊かに照らした。会期は15日から来年1月13日まで。点灯時間は午後5時半〜同9時。今年は「Enjoy's ヒカリあふれコロはすむ」をテーマに、花と電飾の共演による幻想的な夜景が楽しめる。

100万球 光のファンタジー 花回廊、あすから

国内最大級のフラワerparkとっとり花回廊(鳥取県南部町)で、冬季恒例の「フラワールミネーション」が始まるのを前に13日夜、試験点灯が行われた。8万平方メートルの展望回廊内に中国地方では最多クラスとなる約100万球の発光ダイオード(LED)が点灯。濃とした夜の園内を彩り豊かに照らした。会期は15日から来年1月13日まで。点灯時間は午後5時半〜同9時。今年は「Enjoy's ヒカリあふれコロはすむ」をテーマに、花と電飾の共演による幻想的な夜景が楽しめる。

西館テラスとヨーロッパアンガーデンでは、米子高専とのコラボレーションで生徒が手がけたスポットも登場。AI技術を使っ使して来場者の声で光の色を変えたり、音楽のリズムやメロディーに合わせて電飾が光ったりする演出で夜の園内をいっそう盛り上げる。

同高専電気情報工学科5年の川崎天晴さん(20)は「一つ一つ手作業でLEDを設置するのが大変だった。昨年よりもLEDの量を増やしスケールアップした点を楽しんでいる」と話した。

(佐々木誠)

米子市内生徒ら活動報告

将来を担う生徒らに地域について考えてもらおうと、このうち、「YONAG」の文字でフォトスポートの作成に挑戦した班は、市が昨年度から実施。本年度は6校の1〜3年45人が持ち運びでき、どこに置いてまじむ文字のデザインに参加し、フォトスポート作成▽元町パティオ（通称パ）にするなど工夫を凝らし

ティオ広場）活用▽道路で
アート活動▽自然活用▽有
名人マップ作成▽野外音楽
ライブ開催▽の6班と、活
動をPRする班の7班に分
かれて1年間活動した。

自然活用に取り組んだ来
子高専（同市彦名町）3年
の川原さやかさん（18）は
「活動を通じて学校の枠を
超えた交流ができ、古里の
良さも再認識できた」と話
した。（黒坂友哉）



米子市の中心市街地の町家調査で空き家化が進む実態を発表する山根滉生さん＝米子市中町、市立図書館

町家は城下町の街並に面する商家。山根さんは「米子市中心市街地における空き町家の立地と管理実態に関する研究」として、江戸時代に形成された市の中心部17町で、計583軒が確認された2014年のデータを基に調査。22年時点で残るのは500軒で、1割以上の83軒は建て替えられ、解体されて空き地になったりしていることが分かった。

500軒中103軒（20・6％）は空き家で、外観調査で約4割に建物の老朽化や腐朽がみられた。

中心市街地では町家以外

旧城下町・米子の街の風情を形成する「町家」の減少が進み、現存するものも約20%が空き家という実態を、米子工業高等学校専攻科建築学専攻2年の山根潤生さん(2)が調査してまとめた。町づくりの観点から「個人で利活用するのは資金時間、技術面から難しい」とし、利活用に関心を持つ人たちの「コミュニティ」形成などを解決策として提示している。

(吉川真人)

(吉川真人)

の空き家化も進んでいるが、町家は商店街などで密集しているのが特徴。ヒアリング調査で、町屋の解体、空き地化で支えを失った隣の町家が倒壊した例もあった。そのため「空き町家」の再整備は、役割やリスクを考慮する必要があるとし、空き家年数やエリア別の集約的な支援、補助なども解決策に挙げた。

山根さんは、歴史的資源を生かした観光のまちづくりをテーマに、米子観光まちづくり公社などが市内で開いた講演会で、発表。空き町家の解体後、駐車場になるケースが多い実態から「一体的な整備の方向性を定めることが、町家だけでなく周辺の住環境の向上にもつながる」と話した。

米子の「町家」空き家化進む

4. 米子商工会議所報 シャンブル 抜粋

令和6年5月号

シリーズ
No.167

Industry Academia and Government

産学官連携トピックス 米子工業高等専門学校

言語情報による認知の変容に関する研究

総合工学科
情報システム部門

はやし ゆうき
林 侑輝

筆者は、酒呑みである。店頭における日本酒の購買場面を考えると、精米歩合（吟醸、大吟醸等）や日本酒度（俗に言う、甘いか辛い）を手掛かりにする人が多いでしょう。産地やラベルのデザインも重要です。更に最近では、酒にまつわる物語（最近の話題で言えば、東日本大震災の影響を受けた酒蔵が、シアトルで事業を再開した等）も消費者に伝わるようになってきています。甚のグルメ本でも、「物語（ストーリー）を飲む」「物語を知ると美味しくなる」というような見出しが増えていきます。

モノ・サービスを提供する／受け取るということは、広く、物語が伝達されることであると捉えることができます。そう考えれば、ポケベルの番号が「暗号」として使われたり、健康器具が物干し竿として使われたりすることは、開発者側が想定していたストーリーからの「ズレ」と言えます。物語と言うと如何にも文学的でしょうが、ゲーム開発においてNarrativeの概念が重要であることは、少なくとも10年前には指摘

されています。RPGは正にNarrativeですが、パズルゲームの「スイカゲーム」も、ユーザが夫々違って解釈して楽しめる事がヒットの一要因かもしれません（筆者の母は、往年の「ドクターマリオ」に似ていて楽しい、と話している）。解釈に余地のある絵画や歌詞が時代を超えて残ることと同じでしょう。

筆者の研究内容は、（人間の）言語によって認知（思考や感情）が変容していく過程をモデル化・可視化することです。具体的には、広く言語（ことば）に関わる人間の活動を収録してマルチモーダルに分析し、更に、そこから得られた知見を実践にフィードバックする所まで目指しています（下図）。酒の例に戻ると、研究室の学生（未成年）が、アルコールを摂取することなく酒の美味しさや面白さを学んでいく過程を可視化すること（一人称研究）が、現在の研究課題の一つです。

筆者は、酒とともにぐい呑み（焼き物）の制作・鑑賞にも関心があります。酒からは離れますが、伝統的話芸である講談（講釈師の技術）の分析や、診察室におけるコミュニケーションの支援も、「言語と認知」というテーマで通底しています。高専という環境、米子という環境の利を生かし、立場・分野を問わず色々な方とコラボできると幸いです。

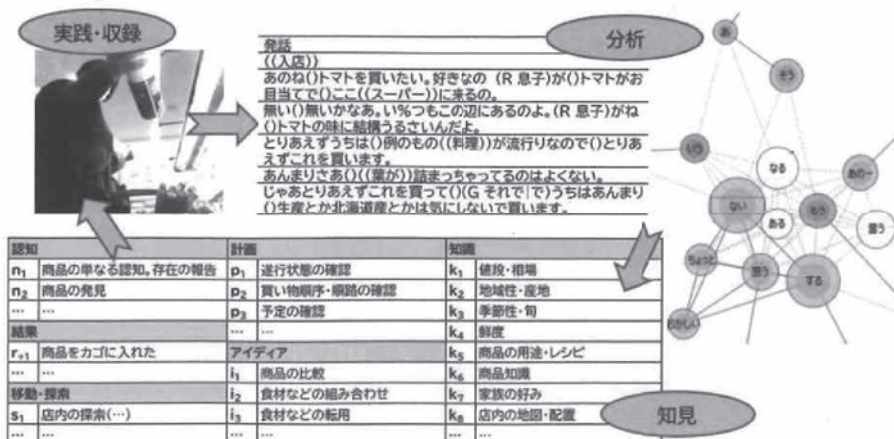


図 当研究室における基本的な流れ。買い物中の発話データ（コーパス）についてテキストマイニング等を行い、認知・行動を記述するタグを作成した例。

【連絡先】

米子工業高等専門学校 総務課 企画・社会連携係

E-mail: kikaku@yonago-k.ac.jp (<https://www.yonago-k.ac.jp/center>)



シリーズ
No.170

産学官連携トピックス

米子工業高等専門学校

Industry Academia and Government

日記資料にみる近代期庶民の旅行文化

総合工学科
教養教育部門

原 遼平

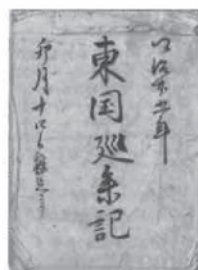
現代社会において観光は経済活動の面だけでなく、人々の生活面でも重要な意味を有しており、旅行はその中心的な役割を担っています。特に明治期以降に登場した長距離汽船や鉄道をはじめとした近代交通機関や旅行案内書は人々の旅行範囲を広げ、新たな名所へと人々を誘うことに一躍を買いしました。

近代期は日本の旅行史上で大きな転換点だったのです。これまで近代期の旅行は案内書や文人・知識人が記した紀行文の内容から分析が進められていました。一方で、当時の庶民たちが本当に案内書や紀行文に示されたような旅行をしていたのかは疑問が残ります。そのため、

本研究では当時の庶民が記した旅日記をはじめとした日記資料を使うことで、近代期の旅行の実態を明らかにすることを試んでいます。

具体的には旅日記の記述から当時の旅行者の行程を復元した上で訪問地を明らかにし、彼らが抱いた訪問地に対する感想や見方（＝場所認識）を整理します。そして、それらがいかなる背景のもとで形成されたのかを考察しています。博士論文では関東地方と近畿地方からの旅行を対象として、関東地方からの伊勢参宮旅行は親子間で強く経験が継承されていたこと、近畿地方からの東京旅行が明治期に入り新たに始まった旅行文化であったことを明らかにしました。

現在は当時、近代交通網が十分に発達していなかった北陸や山陰地域を事例に、日記資料を活用することで旅行者が近代交通機関を旅行に取り入れていく過程を研究しています。



▲明治25年に姫路から実施された東日本旅行の行程と旅日記

世界を支配する究極理論に向けて

総合工学科
教養教育部門

姉川 尊徳

ブラックホールは重力が極めて強く働いている領域です。このような領域で何が起きているかを知るための理論が、量子重力理論です。これはアインシュタインの相対性理論（重力に関連した理論）と、量子力学（原子や分子などのミクロな世界を支配する理論）の統合理論として得られますが、この2つは普通にやると相性が悪く統合できないことが知られており、未完成です。

量子重力理論の有力候補として弦理論があります。これは、世界は粒子のような点ではなくひもで構成されて

いるとする理論で、自然に重力を含む量子力学の仲間です。弦理論は一定の成功を収めました。手で解くことが可能なのは非常に簡単な状況に限定されており、世界を十分に記述するには不満足です。そこで、私の興味は弦理論そのものではなく、弦理論の研究の未見出されたゲージ/重力対応にあります。これによれば、（色々と条件はありますが）重力のある理論と重力のない理論が等価になりうるということが起き得ます。これにより量子重力理論の研究は次のステージに進むことになりました。

ゲージ/重力対応により、重力が強い世界のお話を、重力に頼らない形で記述することが可能になります。これを通して、ブラックホールの特異点や、我々の宇宙の構造などをよりミクロな視点から解明しようとしています。

振動台実験による木造接合部の動的特性に関する研究



総合工学科
建築デザイン部門

藤原 圭康

2024年1月1日に能登半島地震が発生し、大きな地震の発生後も小～中規模の地震が複数発生する現象が観測されています。近年の例では2016年に発生した熊本地震では、4月14日と4月16日に震度7を観測する地震が2回観測されています。建物が地震被害を受けた際に、人命を守るために倒壊しないよう設計することは非常に重要ですが、上記の背景から、建物の損傷を予測することや建物の安全性・継続使用性を評価する動きが高まっています。木造建築物では、土台と柱、柱と梁などの接合部の動的特性や損傷の進展が全体の耐震性能に及ぼす影響が大きいため、それらの情報を把握することが重要となります。私の研究室では一般的な木造住宅を想定した土台―柱の接合部要素を取り出した試験体に対し、振動台による加振実験から接合部の動的特性の把握を行っています(図1)。この実験では試験体頂部にももりを設置し、頂部の加速度と変形を計測することで、慣性力(荷重)と回転角(変形)の復元力特性を算出する

ことができます。

ほぞ差し込みによる木材単体の実験や、ダンパーによる補強を行った実験から、補強をすることで復元力特性が向上することを確認しています。

今年から、上記の実験に加えて釘やビスなどの接合金物単位の損傷特性を計測できる実験方法を確立する予定です。金物単位の試験では、繰り返し回数や加振速度のパラメータが動的性状の変化にどのように影響するか観測する狙いがあります。また、この実験と同様の接合部材から構成される建築架構試験体で振動台実験を行い、要素実験で得られた特性と実際の建物の損傷を比較することで、建物の損傷を予測する手法を開発できると考えています。

接合金物単位の損傷が把握できれば、実際の建物に対して部位ごとに損傷を予測したり、損傷が大きい箇所のみを修繕することで合理的に耐震性能を確保することができるようになります。



図1. 接合部要素を取り出した試験体

地方における文化の可能性を考える：神奈川県湘南地域における文化活動を事例に



総合工学科
教養教育部門

辻 秀平

地方において持続可能な社会の在り方を考える際、地域の人々が互いに理解し合い、共に生きる基盤として、「文化」が果たす大きな役割を見逃すことはできません。1970年代に提唱された「地方の時代」の価値観を始めとして、日本では今日まで、全国各地で地域固有の歴史や文化の再発見(再評価)がなされるとともに、産・官・学・民の多種多様な連携によって、地方の新たな文化創出のための事業が数多く行われてきました。

文化を創出するのは紛れもなく人間です。人間が寄り集まったとき、文化を生み出すエネルギーが起こります。文化の面から地方の持続的発展を考える際には、やはり地域の人々が果たす役割や、その可能性を明らかにする必要があります。

私の研究は、こうした地方の文化を生み出す人々のネットワークに光を当てることを目指しています。そのケーススタディとして、戦中・戦後期の神奈川県湘南地域における文化活動に関心を寄せています。

湘南地域は鎌倉や江ノ島、逗子を始め、今日でも風光明媚な観光地ですが、その穏やかな自然や気候に惹かれて、戦前から日本を代表する文学者や文化人らが数多く居住しました。著名な人物を挙げれば、日本で初めてノーベル文学賞を受賞した作家・川端康成(1899～1972)や、米子とも縁が深い大山を描いた『暗夜行路』で知られる作家・志賀直哉(1883～1971)がいます。そうした人々によって、「鎌倉文士」という緩やかな人的ネットワークが形成されたのですが、このネットワークが実に興味深いのは、地域住民と協同してイベントや各種の文化活動を展開し、今日に至る湘南地域の文化の土壌を形作ったという点です。そうしたネットワークの実態や、多種多様な人々を繋げた原動力とは何かを明らかにする研究を続けています。

山陰においても、松江と縁が深いラフカディオ・ハーン(小泉八雲)や、岩美町出身の女性作家・尾崎翠を始め、ゆかりの文学者や文化人は多数います。また山陰独自の新聞や雑誌といったメディアは、地域の文化を盛り上げてきた歴史があります。私の研究が、私たちが暮らす山陰地域の文化の過去と未来を照らし出す知見に繋がればと願っています。

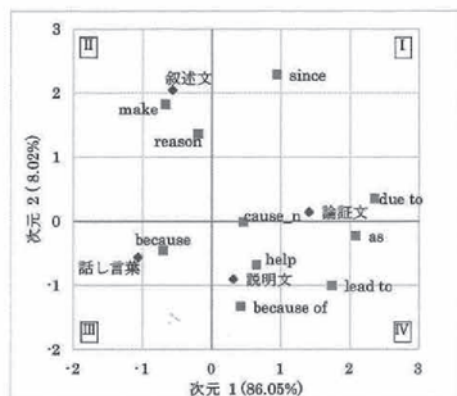
英語と日本語の論理にかかわる表現と構造のメカニズムの解明



総合工学科
教養教育部門

佐々木 恭子

最近SNSなどの普及で、誰でも世界に向けて自身のアイデアや作品などを通し自己表現が可能になりました。世界への発信には、共通言語として英語の使用が一般的です。ここで大切なのは、単に英語で表現するだけでなく、表現したい内容が正確に伝わるよう「聴き手や読み手に伝わる英語」での発信が必要なことです。英語は日本語と音や語彙など様々な点で異なりますが、特に論理構造の違いは大きく、この違いに気づかないと伝わりにくい英語となることがあります。



英語原因表現と文体による対応分析散布図

この課題への改善に取り組むため、私は研究テーマを、「英語母語話者（ネイティブスピーカー）と日本人英語学習者の書き言葉での論理表現や構造の違いについて、その特徴を明らかにすること」としています。論理とはわかりやすく物事を説明することとされ、この説明の中核に理由説明があります。研究では、理由説明でよく使われる becauseを中心にsinceなど言い換え表現が異なる場面でのどのように使用されるかを、コーパスデータを使い分析します。コーパスとは、会話の書き起こしや作文などの文字データをコンピュータ処理できるよう収集したもので、研究目的に合わせ多数作成されています。その中から対象語の頻度を抽出、統計分析して傾向を観察し、結果を考察します。

結果から、母語話者の理由表現は、経験について書くとき、論文で説明・論証するときなど文体により異なり、特に論証や説明文では多様な言い換え表現の使用傾向があるとわかりました。一方日本人学習者では、becauseは習い始めの中学生で頻繁に使用される傾向があります。学年が上がるとbecauseの使用法や過度な使用は改善されるものの、動詞表現など他の言い換え表現の多様性は低いま、なかなか自然な文章を書けるようになりません。母語話者の書き言葉での使用語彙の傾向が文体で異なるのは①文章の目的（何のために書くか）と、そして使用語彙の多様性が生じるのは②文章の主題（何について書くか）と深く関連する可能性が高く、学習者はこれらの2点を意識し、特に主題から離れずに読み手を意識して書くことが英語の書き言葉の質の向上に貢献すると考えられます。

米子市と「ふるさと納税を活用した地域活性化に係る連携協定」を締結しました

令和6年12月4日（水）に、米子市と米子高専は「ふるさと納税を活用した地域活性化に係る連携協力に関する協定」を締結しました。

本校からは、山口校長が出席し、「ふるさと納税を通じて米子高専を応援していただき、地域の活性化や魅力の向上により一層寄与していきたい」と抱負を述べました。

協定締結後には、米子市ふるさと納税メニューに新事業「がいなよなご応援団高等教育機関連携事業（米子工業高等専門学校コース）」が設定され、米子市へのふるさと納税を通じて米子高専への支援が可能になります。

米子高専では、本制度により申し込みいただいた「ふるさと納税」を活用し、地域の活性化及び魅力の向上に寄与する取り組みを行い、米子高専の教育研究・地域貢献活動をより一層推進してまいります。



ふるさと納税（米子市）を活用した
米子高専へのご支援のお願い

X. 令和6年度 地域創生テクノセンタースタッフ



センター長

玉井 孝幸 (建築デザイン部門 教授)



副センター長

川邊 博 (教養教育部門 教授)



センター長補

角田 直輝 (情報システム部門 准教授)

総務課長

田中 大輔

総務課 企画・社会連携係

郷田 大地、落合 雅己、陸浦 奈都子

コーディネーター

・産学連携コーディネーター【鳥取県西部地区担当】

山本 一志

永海 一夫 (11月～)

・産学連携コーディネーター【鳥取県東中部地区担当】

西本 弘之 (～4月)



企業・団体等の
メリット

- 外部資源を活用した**効率的な開発**
- 新しい発想を取り入れた**技術革新**
- 米子高専との連携で**学生の採用**へつながる可能性

技術相談等のお申し込み・お問い合わせ

米子工業高等専門学校
地域創生テクノセンター

TEL:0859-24-5007

〒683-8502

鳥取県米子市彦名町4448

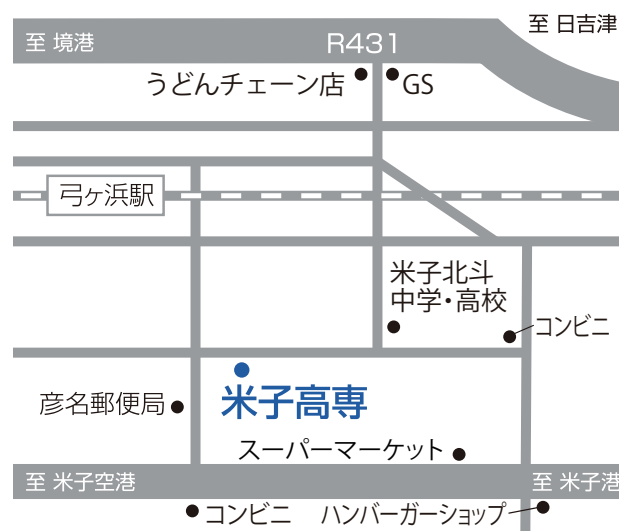
FAX:0859-24-5009

E-mail:kikaku@yonago-k.ac.jp

▶ 米子高専地域創生テクノセンター
<https://www.yonago-k.ac.jp/center/>

米子高専_テクノセンター

検索



令和6年度 米子工業高等専門学校 地域創生テクノセンター活動報告

本活動報告の掲載文・写真・図の一切の無断転載を禁じます